

1. 流域の自然状況

1-1 河川・流域の概要

網走川は、その源を阿寒山系の阿幌岳(標高978m)に発し、山間部を流下し、津別町市街部で津別川を合わせ、平野部を流れながら美幌町市街部において美幌川と合流する。美幌町を貫流し女満別町において網走湖に至り、トマップ川および女満別川を湖内に集め、湖から流れ出て網走市街地を経てオホーツク海に注ぐ、幹川流路延長115km、流域面積1,380km²の一級河川である。

その流域は、網走市、津別町、美幌町、女満別町の1市3町からなり、北海道オホーツク圏における社会・経済・文化の基盤をなしている。流域の土地利用は、山林等が約80%、水田や畑等の農地が約19%、宅地等の市街地が約1%となっている。流域内は森林資源等に恵まれ、下流では農地として明治初期からひらけ、畑作等が営まれ、甜菜やタマネギの全国有数の産地となっている。また、流域内には女満別空港や重要港湾に指定されている網走港が整備されており、陸路ではJR石北本線、国道39号、240号、243号等の基幹交通施設があり、交通の要衝となっている。さらに、網走川はワカサギやサケ、カラフトマス等が遡上する他、網走湖にはシジミが生息する等、魚類等の重要な生息地で豊かな自然環境に恵まれている。また、網走湖を中心にワカサギやシジミ、スジエビ等を対象とした漁業が行われている。このように、本水系の治水・利水・環境についての意義は極めて大きい。

流域の地質は、西部の山地や丘陵地は白亜紀の緑色岩石及び非火山性の新第三紀層であり、東部に広がる丘陵地や台地には第四紀層の火山噴出物が広く分布している。

流域の年間降水量は約800mmであり、全国でもっとも降水量が少ない地域である。

源流部から津別川合流点付近に至る上流部は、河床勾配が約1/50～1/300であり、天然林が多く残り、キタミフクジュソウ、クリンソウ等の植物が生育している。また、上流域にはサケの産卵床がある。

津別川合流点付近から美幌川合流点付近に至るまでの中流部は、広い畑地帯に調和した河川景観を形成しており、河床勾配が約1/300～1/600であり、サクラマスやシベリアヤツメ等が生息している。高水敷はハルニレ群落やエゾノキヌヤナギを主体とするヤナギ群落、ヨシ群落が分布し、美幌町市街地の高水敷には河畔公園や運動公園が整備され、イベントやスポーツ等に利用され、地域住民の憩いの場となっている。

美幌川合流点付近から網走湖に流入するまでの下流部は、河床勾配が約1/2,000であり、ワカサギの産卵床がある。河岸はエゾノキヌヤナギやクサヨシが繁茂し、オジロワシ、オオワシが飛来する。広い高水敷は採草地等に利用されている。

網走湖は、約千年前に現在の形となった海跡湖であり、下流に約7kmの網走川を介してオホーツク海につながっている汽水湖で、網走湖及びその周辺は国定公園に指定されている。また、網走湖の南東岸には、国の天然記念物にも指定されている女満別湿性植物群落があり、網走の自然景観を代表するミズバショウ群生地となっている。女満別湿性植物群落を含む網走湖畔周辺は、アオサギの営巣地となっている他、オジロワシ、オオワシ、クマガラ等の多

くの鳥類の休息地、採餌場となっている。また、水際にはヒロハノエビモ・ホザキノフサモやマツモ等の水生植物が生育している。

網走湖から河口に至る区間は感潮域で、網走市街を貫流し、漁港として利用されている河口部に至る。網走湖の出口である大曲^{おおまがり}地区は、河畔林をはじめとする良好な水辺環境が保全されており、カワセミ、ミコアイサ等の水鳥や、オジロワシ、オオワシ等の多様な鳥類が休息地、採餌場として利用している。また、ワカサギ、シラウオの他、沢水の溜まる箇所にはエゾサンショウウオが生息している。

網走川ではサケ、カラフトマス、ワカサギの増殖事業が盛んに行われている。

網走川水系の治水事業は、昭和9年から北海道第2期拓殖計画の一環として、大正11年8月洪水にかんがみ、本郷^{ほんごう}地点における計画高水流量を5万立方尺（約1,400m³/s）、美幌地点の計画高水流量を4万立方尺（約1,100m³/s）として美幌町市街部から網走湖流入地点までの区間について捷水路の開削、築堤等を実施した。その後、昭和32年に計画を見直し、美幌における計画高水流量を約1,100m³/sから1,200m³/sにし、美幌から住吉までの区間において築堤、掘削等を実施した。昭和43年には住吉から網走市街部までの区間及び津別から美幌までの区間を加え、津別から河口までの計画を決定した。

網走川は昭和44年一級河川に指定され、昭和45年には昭和43年の総体計画を踏襲した工事実施基本計画を策定し、美幌基準点における基本高水のピーク流量を1,200m³/sとして、河道に配分することとした。

その後、平成4年9月洪水で大きな被害を受け、以後、現在まで河道掘削等の工事を継続している。また、平成13年9月洪水では網走湖の水位が既往最高水位を記録するとともに洪水継続時間が234時間にも及び漏水による堤防決壊の危険が生じた。このため、網走湖の湖岸堤防において堤防強化対策が行われている。

砂防事業については、支川の上流部において北海道が平成2年から砂防堰堤等を整備している。

河川水の利用については、開拓農民による農業用水の利用に始まり、現在は、約4,900haに及ぶ農地のかんがいに利用されている。水力発電としては、津別発電所、下津別発電所の2ヶ所により総最大出力1,010kWの電力供給が行なわれている。また、製糖工場等の工業用水やサケ、カラフトマス、ワカサギのふ化養魚用水に利用されている。

水質については、河川ではBOD75%値について、指定されている環境基準値を概ね満足している。一方、網走湖ではCOD75%値が環境基準の3mg/lを大幅に越えており、アオコの他、青潮が頻繁に発生し、漁業資源などに影響を及ぼしている。

そのため、湖内での浄化対策や下水道整備など流域から供給される汚濁負荷を減らす努力が行われている。

河川の利用については、網走湖畔にキャンプ場や多目的スポーツ施設が整備されており、春期から秋期にかけては、カヌーやボート遊び、スポーツ、散策等に、湖が一面氷に覆われる冬期はワカサギ釣りやスノーモービル等四季を通じて広く利用されている。さらに、網走

湖畔や網走及び美幌市街地付近の河畔公園では様々なお祭り等の河川空間を利用したイベント等も行われている。

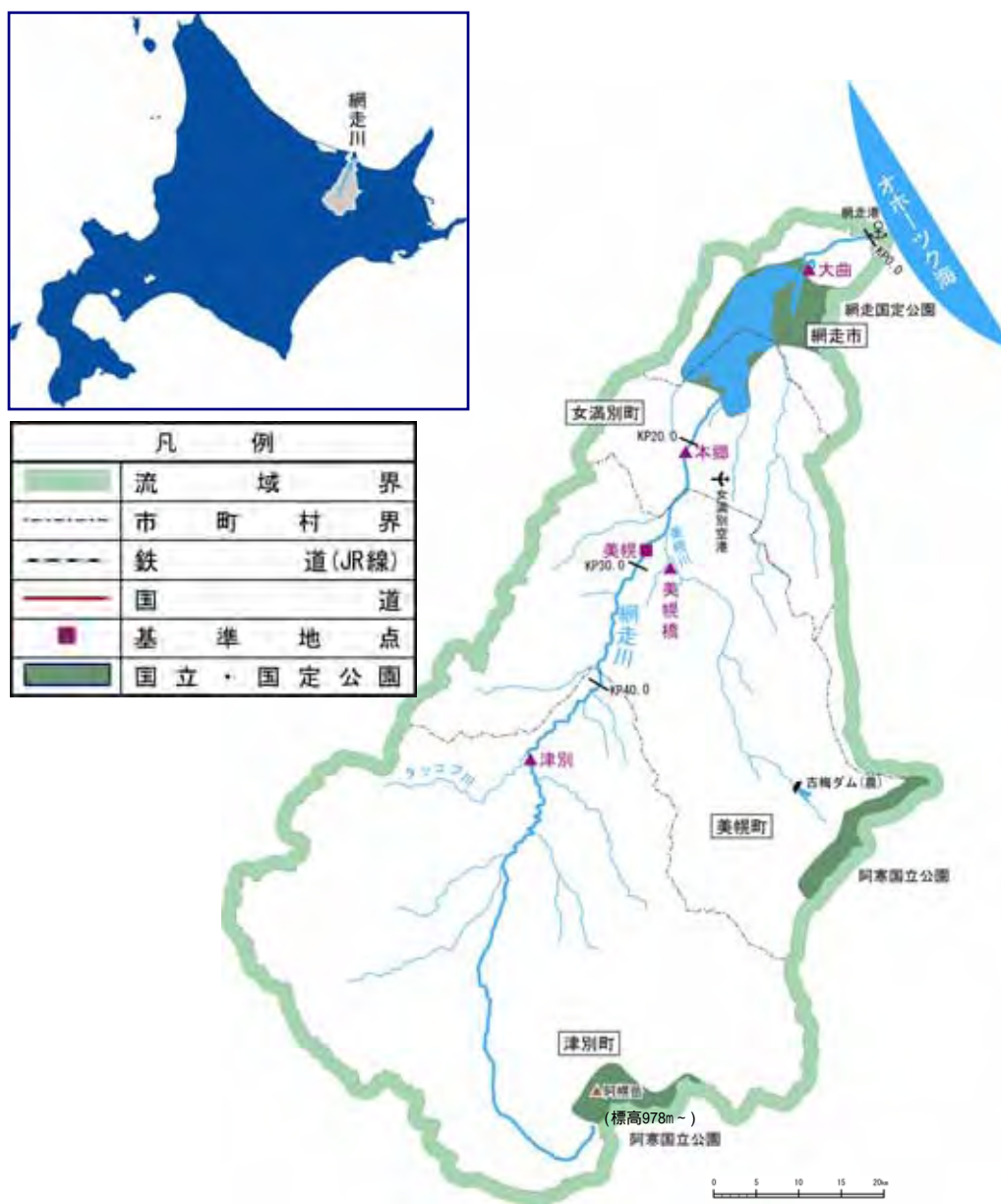


図 1-1 網走川水系図

表 1-1 網走川流域の概要

項 目	諸 元	備 考
幹線流路延長	115km	全国109水系の内42位
流域面積	1,380km ²	全国109水系の内48位
流域自治体	網走市、女満別町、美幌町、津別町	
流域内人口	約5.3万人	平成12年度河川現況調査

1-2 地形

流域の地形は、流域内に1,000mを越す標高の部分は見られず、比較的緩勾配の河川であり、大きく山地、丘陵地、台地、低地の4種類に分類される。

山地は、南部の流域上流部に分布し、本流西側の津別山地は小起伏山地で、本流東側分水嶺付近の藻琴山火山地は藻琴山等の中起伏火山地と周囲の火山麓地を含んでいる。本流の西側は、東側より平均的傾斜が急であるが、全流域を通じて30%以上の急傾斜地は見られない。

丘陵地は、本流中・下流の西側に分布する常呂丘陵地および栄森丘陵地、南部上流域の本流と津別川に挟まれた地域に分布する相生丘陵地、流域東部に広く分布する藻琴火山性丘陵地がある。

網走川と支流の美幌川の中流部には河岸段丘がよく発達し、美幌台地を形成している。また、網走湖と美幌台地の間には女満別低地が分布している。

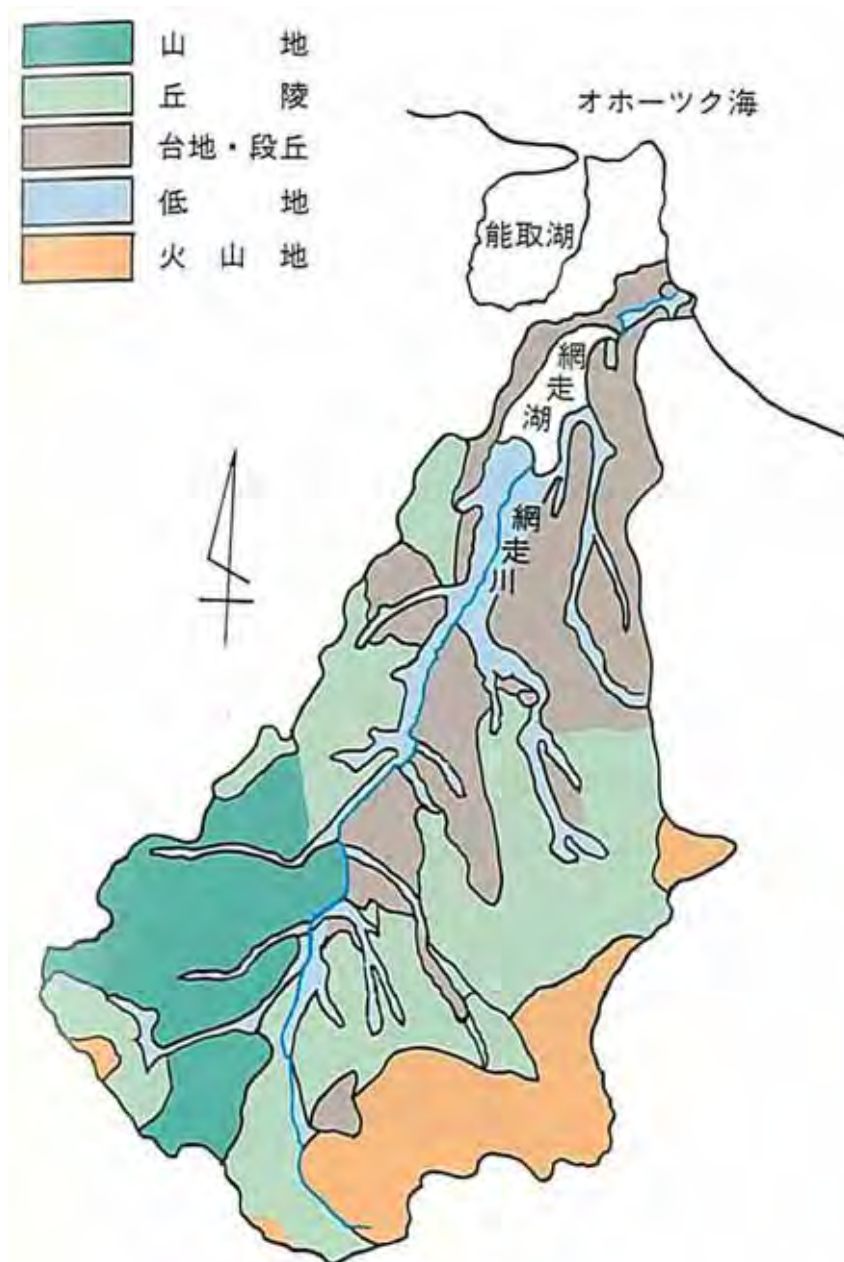


図 1-2 地形分類図

1-3 地質

流域の地質は、西部の山地や丘陵地は白亜紀の緑色岩石及び非火山性の新第三紀層であり、東部に広がる丘陵地や台地には第四紀層の火山噴出物が広く分布している。

西端部のチミケップ湖から訓津峠にかけての山地には、先白亜系仁頃層群が分布している。仁頃層群は玄武岩質凝灰岩、角礫岩を主体とし、レンズ状に石灰岩やチャート等の小岩体を伴う。これらの岩石は、一般に緑色を呈することから緑色岩類と総称される。また、分水嶺付近には、先白亜系の基盤を覆って、新第三系の火山岩類や第四系の火砕流堆積物が小規模に分布している。

西端分を除く本流西側の津別山地や津別川南側の相生丘陵地には、新第三系の堆積岩数が分布する。東部には凝灰岩主体の里美層、中西部にはシルト岩や硬質頁岩等からなる津別層や達姫層が分布している。

流域南部から南東端部の阿寒および屈斜路との分水嶺付近には、火山カルデラの外輪山を形成する安山岩および玄武岩溶岩が分布する。

網走川中・下流の東側に広がる台地や丘陵地には、屈斜路火山を噴出源とする火砕流堆積物が分布している。これらは軽石を含む火山灰を主体としており、小河川沿いには部分的に溶結した部分も認められる。

網走川東側の台地には、非火山性堆積岩類からなる新第三系、中新統網走層が分布し、その上位には段丘堆積物も認められる。

美幌から津別にかけての網走川本流右岸部および美幌川流域には河岸段丘が発達し、砂礫を主体とする第四紀更新統の段丘が広く分布している。また、網走川下流の女満別低地には、泥炭を含む軟弱土の分布が認められる。

凡 例


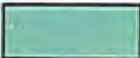

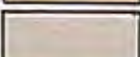
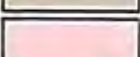
-  未固結堆積物
-  半固結—固結堆積物
-  火山碎屑物
-  火山性岩石(凝灰岩類)
-  火山性岩石(溶岩貫入岩)



図 1-3 地層地質分布図

1-4 気象

オホーツク海側気候区に属すオホーツク沿岸は、梅雨や台風の影響を受けることが少なく、道内では温和な気候と伝えられる。

網走川流域の気温は、他の道東地方の平均気温と同程度で北海道内の気温に比べて若干低く、夏期でも月平均20 前後と冷涼である。特徴として、5月から9月まではオホーツク海高気圧による低温を除いては比較的温和であるが、夏期にはフェーン現象がおりやすく猛暑に見舞われることがある。秋冬にかけては雨量も少なく、晴天乾燥の日が多く続く。冬季は、北西の季節風と流氷の影響を受け、氷点下20 を越える日もある。

北海道の降水量は一般に日本海側に多く、次いで太平洋側、オホーツク海側の順に少なく、平均年降水量は1034mmであり、全国平均と比較すれば雨の少ない地域に分類される。そのなかで、網走川流域の年間降水量は約800mmであり、全国でもっとも降水量が少ない地域であり、特に春から夏にかけての降水量は極めて少ない。

網走地方の降雨型は、移動性低気圧による前線性の降雨が多く8～9月に集中しているが、低気圧の勢力が弱まっていることが多く豪雨になることは少ない。また、降雪は山地を除いて比較的少ない。



図 1-4 気候区分図

表 1-2 主な気象観測値

流域の観測地点	網走地点	美幌地点	津別地点	北海道平均
平均気温()	6.3	5.1	5.1	7.4
最高気温()	31.9	32.8	33.2	30.0
最低気温()	-18.1	-24.9	-25.1	-16.3
平均風速(m/s)	3.2	1.7	1.6	3.6
最大風速(m/s)	15.7	10.1	9.2	16.2
日照時間(時間)	2026	1977	1831	1834
降水量(mm)	736	691	713	1034

流域の観測地点の数値は、1977～2004年アメダス観測データによる平年値
全道平均の値は1977～2004年の各支庁所在地のデータを平均したもの

(出展：気象庁アメダス)

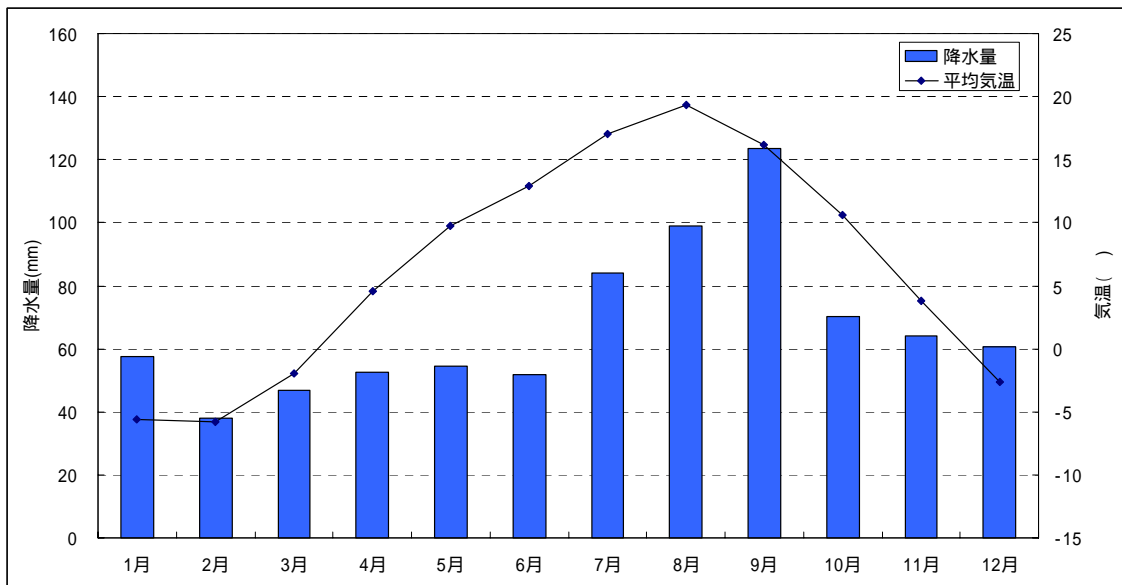


図 1-5 網走地点の降水量と平均気温（過去20カ年(1985～2004)年の平均）

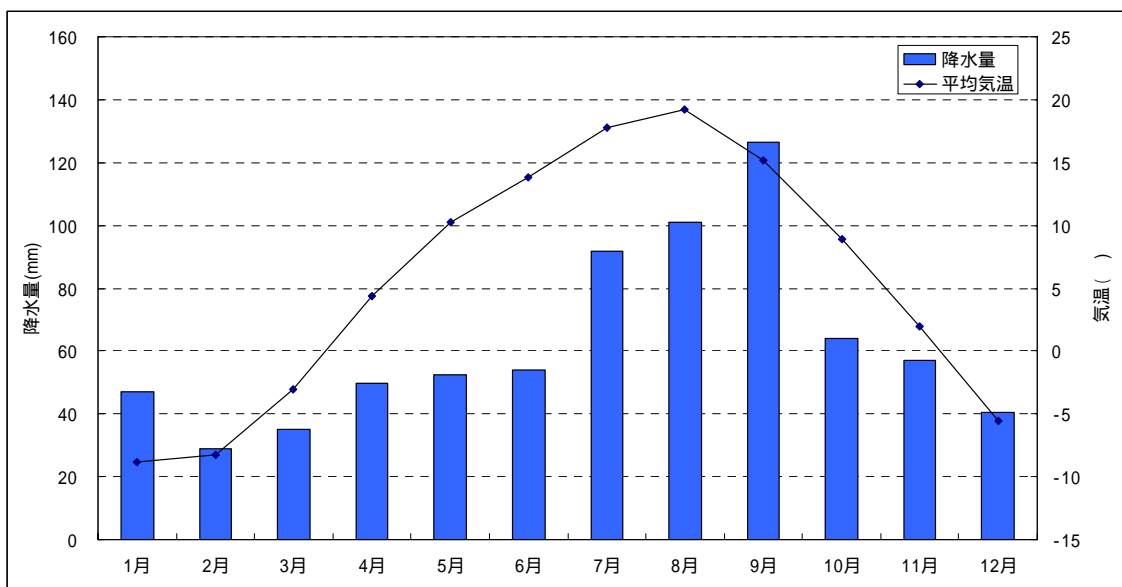


図 1-6 美幌地点の降水量と平均気温（過去20カ年(1985～2004)年の平均）

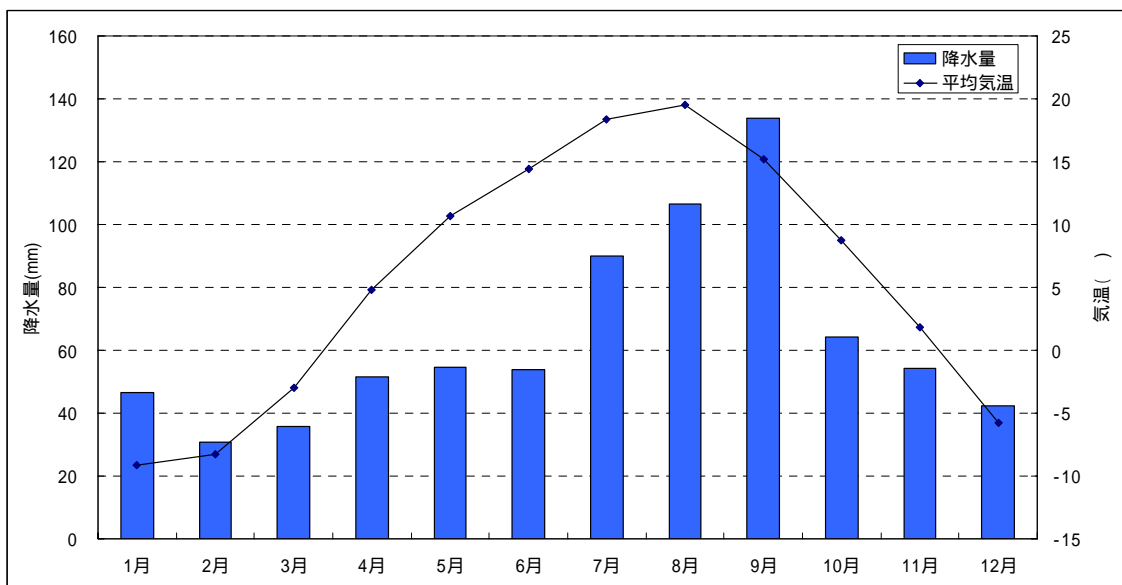


図 1-7 津別地点の降水量と平均気温（過去20カ年(1985～2004)年の平均）

(出展：気象庁アメダス)

1-5 網走湖

網走湖は、数千年前にできた海跡湖で、その後地表の変動等により、約1,000年前に現在の姿になったといわれている。その頃から淡水化が進み、湖盆は半楕円に近く南北に約12km、幅は2～5kmあり、最大水深16.10m、湖岸線長42km、面積32.3km²、湛水量約2.3億m³で道内の湖沼中、第7位の面積となっている。

1-5-1 網走湖成因の経緯

約1万年前の古アバシリ海峡時代（アサリ時代）は、水位が10m高く、能取湖とオホーツク海に通じた海峡となっていた。約3,000～7,000年前の古アバシリ海湾時代（カキ時代）へ移り変わるころになると、水位の下降や地盤隆起等により汽水化され前時代のアサリが消えカキが生息していた。古アバシリ湖時代（シジミ時代）である約1,500～3,000年前の水位は、約3m高かったと考えられ、網走湖と能取湖に分離され、より汽水化が進みシジミにかわり、約1,500年前から現在の上層淡水、下層塩水という、二層湖になったと考えられている。

1-5-2 網走湖の自然環境

網走湖は、昭和33年に網走国定公園に指定された公園内に位置する。周辺は水辺特有の植物が生息しており、天然記念物に指定されているミズバショウ群落があり、湖周辺を縁取るようにヨシが群生しており、エビモ、ホザキノフサモ、マツモ等の沈水植物や浮葉植物のヒシ群落等多様な植物が見られる。

鳥類としてはオオハクチョウやマガモ、オナガガモ等のガン・カモ類が飛来し、カモメ類やシギ等の水辺の鳥類が多数生息している。また、呼人半島と女満別湖畔のヤチダモ林一帯は、アオサギの営巣地となっている。

1-5-3 網走湖の社会環境

網走湖は、シジミやワカサギ、シラウオ等内水面漁業の漁場であり地域経済に大きく貢献している。また、洪水時は自然の遊水池としても網走市街地の洪水防御に役立っている。

網走湖の観光資源としては、春のミズバショウ探勝に始まり、夏のシジミ貝採り、ポート遊びやウィンドサーフィン、カヌー等の利用がなされ、冬には氷上のワカサギ釣り、スノーモービル等を楽しむ人達で賑わっている。キャンプやワカサギ釣りで網走湖を利用する人々は平成16年度で年間約7万人におよぶ。

また、網走湖は、昭和62年全国高校総体、平成元年はまなす国体の漕艇競技場として利用された。



はまなす国体

1-5-4 網走湖の問題と対策

網走湖南部の湖岸は、標高1～2mの網走川が作ったデルタ性低地であり、網走川からの総流土砂によるデルタの発達とともに大きく変化し陸地化現象が進行しており、今後さらに陸地化現象が進み網走湖の洪水調節容量に減少をきたすことと、上流部での水位上昇が懸念されるため、さまざまな調査を実施し、検討を行っている。

また、水質障害として問題となっているのが、青潮とアオコであり、湖面を風速10m以上の強風が吹くと風下に淡水層が吹き寄せられ、その反動で風上では下層の無酸素層が上昇し、一時的に無酸素状態になり、魚等が窒息死してしまうほか、窒素、リン等の汚濁物を含む塩水が淡水層に混入し、水質悪化を助長させる。水質汚染が進んだ状態で、水温が上昇すると植物プランクトンが窒素やリン等を栄養にして大量に増殖することを「アオコ」という。これらの対処として湖底の浚渫や水草の刈り取り等が行われているほか、地域の流入河川の水質浄化を実施している。



青潮の発生により斃死した魚



アオコの発生により緑色に変色した湖



浚渫



水草刈取

1-6 オホーツク海の流氷

オホーツク海は北緯62度から44度にいたる南北約2,000kmにもおよぶ細長い海である。オホーツク海のほぼ全域は毎冬厚い流氷に覆われる。オホーツク海で最初に凍結するのは北緯55度線上の西端にあたるシャンタル島周辺及びそこから北東に延びる海岸沿いであり、早い場所では11月初旬に凍りはじめる。

シャンタル島付近で始まった結氷域は東に拡大し、12月始めには樺太沿岸の北端にまで達する。その後、樺太東岸に沿って南に延び、また東の方にも拡大する。北海道沿岸への襲来はほぼ1月中旬である。2月初めには、流氷範囲は千島列島の南端に達し、その一部は太平洋に流出を始める。

3月の初旬もしくは中旬に流氷域が最大となり、オホーツク海沿岸は毎年厚い流氷で覆われる。

3月以降、流氷の拡大経路と丁度逆の経路をたどって流氷が後退する。樺太北部沿岸では5月初旬でも流氷がみられ、オホーツク海に流氷が完全になくなるのは6月に入ってからである。

流氷の厚さは北海道沿岸で40cmから50cm、北部では1m強である。しかし、互いに積み重なった氷(これを氷丘という)の高さは、北海道沖でも海面上数メートルに達するのが珍しくない。

2. 流域及び河川の自然環境

2-1 流域の自然環境

2-1-1 植物

網走川流域の地形は山岳地から低湿地に至る高度差も大きく、加えて河川、湖沼、海と非常に変化に富んでいる。このため、低地帯から高山帯までの様々な植生が見られ、源流域の阿寒岳周辺にはハイマツに代表される高山植物群落が見られ、それより標高が下がるに従い、針葉樹林、針広混交林、広葉樹林となっていく。特に津別峠、チミケツブ湖周辺等の山岳地帯には、エゾマツ・トドマツの針葉樹林が広く分布している。山麓部では、エゾマツ・トドマツの針葉樹とミズナラ、エゾイタヤ等の広葉樹が混生する針広混交林が代表し、カラマツの人工林も比較的良く見られる。

網走川や網走湖周辺にはヤナギ林やヨシ群落等の水辺特有の植生となっており、網走湖畔には天然記念物に指定されている女満別湿性植物群落等が分布している。



エゾマツ林



女満別湿性植物群落（ミズバショウ）

2-1-2 哺乳類

網走川流域は山地や丘陵地を中心に自然林が多く残されており、近くに阿寒国立公園、網走湖、能取湖等の大きな湖沼があることから、哺乳類の生息環境として恵まれた地域である。

上流部の森林地域では、エゾシマリス、エゾリスや、大型哺乳類のエゾヒグマ、エゾシカが広く生育している。平野部や下流域では、農耕地やヤナギを主とする河畔林が見られ、キタキツネ、イタチ、イズナ、エゾリス、カラフトアカネズミ等の中・小型の哺乳類が生息している。



キタキツネ



エゾシカ

2-1-3 鳥類

網走川流域は、自然林が多く残され、また低地帯から高山帯、さらには網走湖やチミケッブ湖等の様々な環境に恵まれていることから、全般に鳥類相は豊富で多種類の鳥類が見られる。

市街地や集落地の周辺では、ムクドリ、ハシブトカラス、スズメ、トビ等が優占し、平地から林縁地にはシジュウカラ、ホオジロ、モズ等が見られる。

山地部の落葉広葉樹林には、コガラ、アカゲラ、コゲラ、エナガ、オオルリ等が生息し、溪流ではカワセミ、カワガラスが見られる。また、高海拔地の針葉樹林には、ウソ、アオジ、コサメビタキ、クマゲラ、センダイムシクイ等が生育する。

網走湖の水面には、オオハクチョウをはじめ、マガモ、オナガガモ、ホシハジロ等のガン・カモ類が飛来し、また、ユリカモメ、オオセグロカモメ等のカモメ類やシギ類等の水辺の鳥類が多数生息する。なお、網走湖畔のヤチダモ林一帯は、アオサギの繁殖地として有名である。

貴重種としては、オジロワシ、オオワシ、オオジシギ、カワセミ、ヒシクイがあげられる。



オオワシ



アオサギコロニー

2-1-4 昆虫類

網走川流域は北東部地域にあって夏季の冷涼、冬季の酷寒という気象条件下にあるが、自然植生地がまだ比較的広く残されていることから、ヒメウスバシロチョウ、エゾチッチゼミ等の北海道特産種、準北海道特産種、キタイトトンボ、ゴトウアカイトトンボ、エゾリンゴシジミ等の北海道を分布の南限とする種の多くの昆虫が生息している。



ヒメウスバシロチョウ

2-1-5 魚類

網走川の魚類の生息分布はエゾウグイが全域に生息するほか、底質に粘土や砂が多い下流部の緩流域ではドジョウ、エゾホトケ、ヤチウグイ、ウキゴリ、カワヤツメ等が生息しており、底質が礫や砂で水が澄んだ中流域ではエゾウグイ、フクドジョウが多数生息している。礫底が主体となる上流部ではサクラマス（ヤマメ）、シベリアヤツメ、アメマス、ハナカジカ等の渓流性の魚類が生息する。網走湖にはワカサギ、シラウオ、エゾウグイ、ヤチウグイ等が多く生息している。



アメマス



サクラマス（ヤマメ）

2-1-6 両生類・爬虫類

網走川流域の両生類は、北海道の山林原野に普通に生息しているエゾアカガエルが代表的である。また、「北海道の希少野性生物 北海道レッドデータブック2001」において留意種に選定されているエゾサンショウウオも網走湖周辺の沢水のたまる場所で確認されている。爬虫類は調査記録が少ないが、アオダイショウ、シマヘビ、カナヘビ等の生息が確認されている。

表 2-1 網走川の特定種-1

区分	NO	種名	指 定 区 分			
			文化財保護法	環境省レッド データブック	北海道レッド データブック	その他
植物	1	ヤチスギナ		EN	Vu	自然(貴重)
	2	エゾノミズタデ			Vu	自然(貴重)
	3	ノダイオウ		VU		
	4	エゾノミヤマハコベ		VU		
	5	エゾハコベ		EN	Vu	自然(貴重)
	6	エゾオオヤマハコベ				自然(貴重)
	7	アカミノルイヨウショウマ				自然(貴重)
	8	フクジュソウ		VU	Vu	
	9	マツモ			R	
	10	エゾオトギリ		VU		
	11	ツルキケマン		EN		
	12	エゾスズシロ				自然(貴重)
	13	ワサビ			R	
	14	ハマタイセイ		CR	En	
	15	エゾネコノメソウ		EN		
	16	ヤグルマソウ			R	
	17	クロミサンザシ		CR	Cr	自然(貴重)
	18	エゾシモツケ		EN		
	19	ホザキシモツケ		VU		
	20	オオバタチツボスミレ		VU		
	21	エゾサイコ			R	
	22	エゾムラサキツツジ		VU		自然(貴重)
	23	クリンソウ			Vu	
	24	エゾノカワヂシャ				自然(貴重)
	25	ネムロブシダマ		VU		自然(貴重)
	26	イトモ		VU		
	27	クロユリ			R	
	28	エゾヒメアマナ		VU	R	
	29	ヒメウキガヤ			R	
	30	ミクリ		NT	R	
	31	タマミクリ		VU		
	32	ジョウロウスゲ		EN	R	
	33	アカンカサスゲ			R	
	34	ネムロスゲ		VU		
	35	ウスイロスゲ		VU		
	36	ヒメホタルイ			R	
	37	コオノオレ		VU		
	38	キタミフクジュソウ		VU	Vu	
	39	チドリケマン		NT		
	40	ヤマタニタデ		VU		
両生類	1	エゾサンショウウオ			N	自然(主要)、第2(選定)
爬虫類	2	カラフトアカネズミ			N	
哺乳類	3	テン属の一種(エゾクロテン)		DD		

表 2-2 網走川の特定種-2

区分	NO	種名	指 定 区 分			
			文化財保護法	環境省レッド データブック	北海道レッド データブック	その他
鳥類	1	カンムリカイツブリ			Vu	
	2	ヒシクイ	天然	VU	R	
	3	コハクチョウ			R	
	4	オシドリ			R	
	5	ヨシガモ				自然(主要,自然)
	6	シノリガモ			R	
	7	ミコアイサ			Vu	
	8	ミサゴ		NT	Vu	
	9	オジロワシ	天然	EN	En	絶滅(国内) 自然(主要,自然)
	10	オオワシ	天然	VU	En	絶滅(国内)
	11	オオタカ		VU	Vu	絶滅(国内)
	12	ハイタカ		NT	Vu	
	13	ハイイロチュウヒ			R	
	14	チュウヒ		VU	Vu	
	15	ハヤブサ		VU	Vu	絶滅(国内)
	16	エゾライチョウ		DD	R	
	17	タンチョウ	特天	VU	En	絶滅(国内), 自然(主要)
	18	ホウロクシギ		VU	R	
	19	オオジシギ		NT	R	自然(主要)
	20	ヤマセミ			R	自然(主要)
	21	カワセミ				自然(主要)
	22	クマガラ	天然	VU	Vu	自然(主要)
	23	オオアカゲラ			N	
	24	コアカゲラ			R	
	25	アカモズ		NT	R	
	26	シマアオジ		NT	R	
魚類	1	スナヤツメ		VU		
	2	シベリアヤツメ		NT	R	
	3	ヤチウグイ		NT		
	4	マルタ			N	
	5	エゾウグイ			N	
	6	エゾホトケドジョウ		VU	En	
	7	シラウオ			R	
	8	ヒメマス			Cr	
	9	サクラマス			N	
	10	ヤマメ			N	
	11	降海型イトヨ			N	第2(選定)
	12	トミヨ				第2(選定)
	13	イバラトミヨ(キタノトミヨ)			R	第2(選定)
	14	ハナカジカ			N	
	15	ルリヨシノボリ			R	
	16	モノアラガイ		NT		
	17	オシヨロコマ		NT	R	

表 2-3 網走川の特定種-3

区分	NO	種名	指 定 区 分			
			文化財保護法	環境省レッドデータブック	北海道レッドデータブック	その他
昆虫類	1	セスジイトトンボ			R	
	2	コエゾトンボ				自然(自然)
	3	ナツアカネ			R	
	4	エゾアカネ			R	自然(自然)
	5	クロスジコアオカスミカメ			R	
	6	ズイムシハナカメムシ		CR+EN		
	7	ナナホシクサカゲロウ			R	
	8	ヒメアミメトビケラ			R	
	9	カラフトタカネキマダラセセリ				自然(自然),第2(特定)
	10	ギンイチモンジセセリ		NT	N	
	11	チャマダラセセリ		CR+EN		第2(特定)
	12	カバイロシジミ				自然(主要),第2(特定)
	13	ゴマシジミ		VU	N	
	14	ジョウザンシジミ				自然(自然),第2(特定)
	15	シロオビヒメヒカゲ北海道東部亜種				自然(自然),第2(特定)
	16	アナバネゴミムシ			R	
	17	クマガイクロアオゴミムシ			R	
	18	エゾアオゴミムシ			R	
	19	セスジアカガネオサムシ				第2(特定)
	20	アイヌキンオサムシ				自然(自然),第2(特定)
	21	アイヌハンミョウ			Vu	
	22	オオツヤバネベニボタル			R	
	23	ケマダラカミキリ		NT	N	
	24	エゾカミキリ			R	第2(特定)
	25	クビボソハナカミキリ				第2(特定)
	26	クロルリハムシ			R	
	27	カワカミハムシ			R	
	28	コニシケブカハムシ			R	
	29	セボシクサカゲロウ			R	
	30	<i>Drepanopteryx punctatus</i>			R	
	31	ヒョウモンチョウ		NT		
底生動物	1	マルタニシ		NT		
	2	モノアラガイ		NT		
	3	セスジイトトンボ			R	
	4	キタイトトンボ				自然(自然),第2(特定)
	5	マンシュウイトトンボ		NT	R	自然(自然),第2(特定)
	6	ヒメリスアカネ			R	自然(自然)
	7	カラフトゴマフトビケラ			R	
	8	ムカシトンボ			N	
	9	ゴマフトビケラ属の一種			R	
	10	キボシツブゲンゴロウ		NT		
	11	ハセガワドロムシ			R	

(出典：河川水辺の国勢調査)

- ・文化財保護法
 - 天然：天然記念物
 - 特天：特別天然記念物
- ・環境省レッドデータブック(2000)
 - EX：絶滅
 - CR：絶滅危惧ⅠA類
 - NT：準絶滅危惧
 - EW：野生絶滅
 - EN：絶滅危惧ⅠB類
 - DD：情報不足
 - CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類
 - VU：絶滅危惧Ⅱ類
 - LP：地域個体群
- ・北海道レッドデータブック(2001)
 - Ex：絶滅種
 - En：絶滅危惧種
 - Lp：地域個体群
 - Ew：野生絶滅種
 - Vu：絶滅危急種
 - N：留意種
 - Cr：絶滅危機種
 - R：希少種
- ・その他
 - 自然：緑の国勢調査 - 自然環境保全調査報告書 - (環境庁 1976)
 - (貴重)貴重植物 (主要)主要野生動物 (自然)すぐれた自然
 - 第2：第2回緑の国勢調査 - 自然環境保全基礎調査報告書 - (環境庁 1983)
 - (選定)環境庁選定種 (特定)特定昆虫類
 - 絶滅：絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年6月5日 法律第75号)
 - (国内)国内希少野生動植物種

2-2 河川及びその周辺の自然環境

(上流部)

- ・天然林が多く残り、キタミフクジュソウ、クリンソウ等の植物が生育
- ・サケやカラフトマスが上流域まで遡上しており、サケの産卵床が分布

(中流部)

- ・広い畑地帯に調和した河川景観を形成、サクラマスやシベリアヤツメ等が生息
- ・高水敷はハルニレ群落、ヤナギ群落、ヨシ群落が分布
- ・河畔公園、運動公園が整備され、イベントやスポーツ等に利用

(下流部)

(網走湖～美幌川合流点付近)

- ・美幌川合流点から網走湖までの下流域は、ワカサギ産卵床が連続して分布
- ・河岸はエゾノキヌヤナギやクサヨシが繁茂し、オジロワシ、オオワシが飛来
- ・広い高水敷は採草地等に利用

(網走湖)

- ・国定公園にも指定され、貴重な湿生植物群落やアオサギの営巣地
- ・網走湖の水質はCOD75%値が環境基準を満足していない
- ・「アオコ」や「青潮」の発生による漁業資源等への悪影響が懸念されている

(感潮域)

- ・網走市街地を貫流
- ・網走湖から下流は、良好な河畔林
- ・オジロワシ、オオワシ等の多様な鳥類の生息地

2-3 特徴的な河川景観や文化財等

2-3-1 景観・景勝地

網走川流域は、網走湖およびチミケップ湖の湖沼景観を始めとした自然景観に恵まれている。湖の周囲ではキャンプ場や公園等の自然とふれあう場を提供しており、網走湖周辺には温泉地が点在している。

美幌町から弟子屈町間には主要観光ルート的美幌峠があり、展望台からは屈斜路湖や摩周岳、斜里岳までが一望でき、津別峠と並び主要観光地となっている。

また、流域内市町村では四季を通じて多彩なイベント等を開催し、住民が一带となって観光を盛り上げている。



網走湖



美幌峠

表 2-4 主な観光対象

項目	市町村名	名称	内容
湖沼	網走市・女満別町	網走湖	網走市と女満別町に、またがる緑の樹林に覆われた静かな湖です。湖畔のキャンプ場では夏を、わかさぎ釣りでは冬を楽しめます。4月下旬から女満別から呼人の間の湖畔では、ミスバショウの群落が美しく広がります。
	津別町	チミケップ湖	原生林が生い茂り、天然記念物のクマゲラをはじめとする野鳥、野生生物が生息しており、阿寒湖と並ぶヒメマスの原産湖として知られています。また、野鳥公園や野鳥観察舎があります。
温泉	女満別町	網走湖温泉郷女満別温泉	市街地に3ヶ所ある天然温泉を総称して、網走湖温泉郷女満別温泉と呼んでいます。
	網走市	網走湖畔温泉	網走湖を一望する高台にある温泉で、近くにはミスバショウ群生地や探鳥遊歩道があり、豊かな自然を満喫できる。
体験施設	美幌町	美幌航空公園	パラグライダーやウルトラライトプレーンなどが体験できます。
恒例イベント	網走市	流水観光砕氷船「おーら」運航	世界ではじめて観光を目的とした砕氷船「おーら」でのクルージングは迫力満点。航海のもう1つの目的はアザラシやオオウシ等のオホーツクの仲間との出逢い。北の海から大自然を強く感じられる。
	網走市	あばしりオホーツク流水まつり	厳寒の網走港をステージに開催される、オホーツクを代表する冬の祭典。氷と雪の彫刻や流水みこし・流水レガッタ・オロチョンの火祭りなど。
	網走市	オホーツク・インターナショナル歩くスキーフェスティバル	参加者は自分の体力に合わせて、4つのコースから選んで競技を楽しむ歩くスキーフェスティバル。流水を間近に眺めながらの国際色豊かな雪原の祭典。
	網走市	北の新大陸発見！あつたか網走	冬期ロングラン体験イベントとして網走湖畔で開催します。昼の部は、スノーモービル・四輪バギー・氷上バナナボート・氷のすべり台等冬を思いっきり体験できます。夜の部は、灯かりで氷上原生花園を演出。
	美幌町	びほろ冬まつり	恒例となった「千人鍋」の無料提供や「雪合戦」、「雪入れ合戦」など楽しいイベント盛りだくさんです。
	津別町	津別かっこう大会	3.0kmのコースを豪快に滑る滑降競技大会。
	網走市	天都山さくらまつり	天都山には約1,000本のエゾヤマザクラが咲き、5月中旬が見ごろ。天都山の桜まつりは、日本列島を3ヶ月かけて北上する桜前線のフィナーレとなる。
	美幌町	美幌峠まつり	光客の旅路の安全と峠の賑わいが祈願され、カムイミノ(アイヌ民族による安全祈願)が行われて、アイヌの人々の民族舞踊などの伝統芸能も披露されます。最後に勇壮な美幌峠太鼓で美幌の春の訪れを祝います。
	網走市・北見市・端野町・女満別町・小清水町	でっかいどうオホーツクマーチ	オホーツクの自然と味覚を楽しみ、健康作りをめざしたイベント。5つの市町を2日間かけて楽しくとにかく歩きに歩く。
	女満別町	女満別メルヘンツデーマーチ	平成15年度より「でっかいどうオホーツクマーチ」の1大会として、名称を変更して開催。女満別町の自然景観を楽しみながら、2日間ウォーキングします。
	網走市	あばしりオホーツク夏まつり	オホーツクの短い夏を楽しむ市民参加のお祭り。毎年3,000人もが踊る「流水音頭パレード」は、中心街の歩行者天国が会場。ハイライトはオホーツクの空に映える花火大会。
	網走市	網走川祭(かわったさい)	あばしりオホーツク夏まつりの一環として行われ、網走川左岸を舞台に水上特設ステージでアマチュアバンドがロックなどを演奏。さらに水上綱引きなどが行われるほか、屋台も並んで祭りを盛り上げる。
	網走市	オロチョンの火祭り	神と通じ合うことのできる特能者(シャーマン)が登場し、伝統に沿って繰り広げられる厳粛なお祭り。北方系民族の儀式や風俗を取り入れた網走だけのユニークな行事。
	津別町	津別川渓流フィッシング大会	21世紀の森キャンプ場及び河岸公園付近の津別川においてニジマス釣り大会。
	津別町	つべつ夏まつり	自作ダンボール舟川くだり大会、千人踊り、山鳴太鼓等イベント盛り沢山。
	美幌町	びほろ100kmデュアスロン大会	美幌の大自然を自転車とマラソンで走破。
	女満別町	めまんべつ観光夏まつり	湖畔の水上花火大会をはじめ、シジミのつかみ取りなど水辺に親しむイベントがいっぱい。
	網走市	網走ハーフマラソン	網走市街から原生花園の間の道路は、マラソンの公認コース。市民参加のマラソンとして年々参加者も増加している。夏場にマラソンができるのも、爽やかな網走ならではといえる。
	津別町	つべつ納涼盆踊り大会	ふるさと情緒たっぷり盆踊り。大会最終日には毎年趣向を凝らした仮装をして、大人も子供もやぐらを囲んで踊ります。
	津別町	津別マウンテンエンデューロ	泥地、岩場、川渡り、林道を含む山林60km、オフロードバイクで走るモーター競技。
	美幌町	びほろサマーナイトフェスティバル	夜の路上を舞台に熱く繰り広げられるダンスの祭典
	網走市	七福神まつり	その昔の網走の風物詩であった七福神めぐりと、網走地方の代表的な地域産物の美りを喜ぶ祭り。
	女満別町	白魚まつり	9月中旬に行なわれるおまつり。白魚は、網走湖で採れる透明なサケ科の魚。
津別町	つべつふるさとまつり	この秋祭りの名物は町内を練り歩く郷土芸能「駒踊り」そして津別鹿鳴郷の面々による「みこし」があります。	
美幌町	美幌スカイカップ	パラグライダー競技	
網走市	カーニバルオホーツク	オホーツクの味覚の収穫祭ともいえるのがこのカーニバルオホーツク。鮭のつかみ取りやサーモンレースなどのイベントのほか、網走の味覚が即売される。	
女満別町	収穫感謝まつり	地元野菜の特売やもちまきなどが行なわれます。	
津別町	つべつ紅葉マラソン大会	原始林の中を走る森林浴マラソンです。競技としてのマラソンではなく自然との一体感を楽しんでいただく為の大会。	
美幌町	びほろ産業まつり	ステージアトラクションや特産品の即売が行われます。	
津別町	つべつカップ回転競技大会	国際スキー連盟(FIS)公認	
津別町	つべつカップ大回転競技大会	全日本スキー連盟B級公認(北海道スキー連盟A級公認)	
美幌町	美幌観光和牛まつり	青空の下で5万人が集まる、美幌和牛大バーベキューパーティー、ステージアトラクション、子供広場などのイベントが盛り沢山。	

2-3-2 文化財

網走川流域には歴史的に重要な文化財、史跡は表 2-5に示すとおり国指定で4件、道指定が2件(内1件は北海道遺産)、市指定が3件、町指定が4件である。

表 2-5 指定文化財

指定の種類	名称	所在地 指定年月日	概要
国	桂ヶ岡砦跡	網走市桂町昭10.12.24	桂ヶ岡広陵の一端に大小二つのチャシ(砦)が築かれている。先住民族はその上に立ち、向かいあってチャランケ(談判)したことからチャランケチャシの名も残っている
国	最寄貝塚	網走市北1条東2丁目昭11.12.16	純海岸性の貝塚で、モヨロ貝塚人として著名である。オホーツク式文化の宝庫。
国	天都山	網走市天都山昭和13.12.14	国指定名勝、標高207メートルの低い山ではあるが、オホーツク海をはじめ、網走湖、能取湖、涛沸湖、藻琴湖、はるか知床や阿寒の山並まで壮大な眺めである。
国	女満別湿生植物群落	女満別町網走湖南岸～網走市呼人昭47.6.14	網走湖南部東岸、ヤチダモおよびヤチハンノキを主とする落葉広葉樹の自然林である。林床には、ミスバショウの広大な群落が延長約2kmにわたって我が国北部の低湿地林のひとつとして、ミスバショウの代表的な群生地として学術上価値が高い。
国	博物館網走監獄教誨堂	網走市呼人1-1平成17.7.12	桁行17間半梁間7間の木造平屋建てで、入母屋造、椽瓦葺とし、軒に垂木を見せる。外壁は柱形付下見板張で、腰を縦羽目板張とし、櫛形ベディメント付の上げ下げ窓を開く。内部は無柱の広間で、内壁と折上天井を白漆喰塗とする。収監施設の近代化を示す遺構。
国	博物館網走監獄五翼放射状平屋舎房	網走市呼人2-2平成17.7.12	中央見張所から45度毎に切妻造平屋建ての房舎5棟を接続する。外壁は柱形付の下見板張である。見張所は寄棟造で正面を切妻造としハンマービーム構造を見せ、房舎は棟に明り取りの天窓を設けた中廊下で、小屋組はタイバーを用いたクインポストトラスとする。
国	博物館網走監獄二見ヶ岡農場	網走市呼人3-3平成17.7.12	北海道集治監網走分監の泊込作業場として建設。木造平屋建てで、庁舎の背後に食堂・講堂棟、舎房棟を並置し、食堂には作業場、洗濯・足洗場が接続し、渡廊下が炊場棟を結ぶ。庁舎の外壁は柱形付の下見板張で、腰を縦羽目板張とし、欄間付の引違い窓を開く。
北海道遺産	オホーツク沿岸の古代遺跡群	網走地域	オホーツク沿岸地域では縄文、続縄文、オホーツク文化、アイヌ文化まで各時代の遺跡が分布し、白滝村など内陸部では旧石器時代の遺跡が多く見られる。オホーツク沿岸の遺跡は樺太・シベリアなど大陸諸文化との関係が強く認められ、堅穴住居が連続と残る常呂遺跡、オホーツク文化遺跡として著名なモヨロ貝塚、縄文後期の朱円周墳墓などが代表格。
道	女満別石刃 鏃遺跡出土の遺物	女満別町西3条3丁目1昭43.1.18	女満別町豊里遺跡から出土し、主に旧石器時代のもと同様の石刃が主体をなしている。(石刃等760個)
市	永専寺山門	網走市南6条東2丁目昭和54.2.10	明治末期に作られた旧網走刑務所正門で、大正11年に永専寺山門として移築された。和風と洋風混合の独特のつくりで、擬洋風建築のながれを継ぐ貴重な遺構であり、北海道行刑史上からもきわめて重要な施設である
市	鱒浦稻荷神社絵馬	網走市字鱒浦78番地昭和54.2.10	鱒浦稻荷神社と同じように又十藤野が航海の安全と大願成就の感謝のしるしとして奉納した絵馬で、文政4年から明治6年まで10枚奉納された。
市	ボンモイ柱状節理	網走市台町3丁目昭和58.3.5	大規模に広がっている安山岩の柱状節理は、市街地至近の距離に位置し、オホーツク海の碧と調和して美しい海岸景観を呈するとともに崖面に露頭する多角形断面はその形状種類が多く、岩漿運動(マグマ)の複雑な様相を調べるうえでも地質学上貴重な価値がある。
町	美幌小学校カシワの木	美幌町平成11年	美幌小学校のカシワの木は、推定樹齢350年以上と言われている大木。校庭、プール横、体育館横に数本の巨木がある。
町	ベニバナヤマシャクヤク自生地	美幌町野崎・柏が丘公園樹木園平成11年	ベニバナヤマシャクヤクは、ポタン科の植物で、6月頃にピンク色の鮮やかな花をつける。盗掘が相次ぎ、西日本ではほぼ絶滅し、北海道でも近い将来絶滅するのではないかと危惧されている。そのベニバナヤマシャクヤクの自生地が、野崎・柏が丘公園樹木園の内にある。1996年に博物館と有志らで、自生地を保全するために案内板と簡易防護柵を設置した。
町	絵模様つき礫(れき)	美幌町みどり遺跡発掘現場平成11年	縄文時代中期の絵模様つき礫(れき)で、隅丸三角形の扁平な石の表面に、黒色顔料を用いて円形が描かれており、円の外側には放射状の6本の線が描かれている。縄文時代中期のこのような資料は、全国的にも珍しいと言われている。
町	瑞治足柄奴(みずはるあしがらやっこ)	美幌町平成11年	昭和2年、美幌神社秋季祭典のお御輿の先導として、瑞治などの青年らにより神社に奉仕された。以来、毎年9月5日に美幌神社を出発して、「エンヤーエンヤー」の掛け声に合わせて、25名編成の瑞治足柄奴保存会の行列が、氏子全域を巡行する。地域で親子代々が担い手となり、70年余り継承されてきた貴重な民俗芸能。

2-4 河川環境をとりまく背景

網走川では、川の親しみを広げる催し、イベント等による利用等様々な活動が行われている、なお、網走川の年間利用者数は約58.0万人(平成14年度河川水辺の国勢調査)であり、スポーツ利用が約半数(48.6%)を占める。

河川空間利用に関しては、水辺プラザ、網走湖畔キャンプ場等の住民が川とふれあえる空間や川による地域間交流ができる場が整備される等により親水性の高い河川として利用されている。



水辺プラザ



網走湖畔キャンプ場



網走湖のワカサギ釣り



網走湖での漕艇競技

2-5 市民活動

網走川流域では、網走市網走川整備検討委員会、網走川河道整備促進協議会等が組織され、網走川の治水効果の早期向上や河川整備について官民一体となって検討をしている。また、関係機関で構成される網走湖環境保全対策推進協議会により、平成13年に「網走湖の水質保全に関する提言」がなされた。

流域の水防団は、災害発生時には河川管理者と連携を図り、被害軽減に努めている。また、網走川の環境を守るため、河川管理者と一緒に地域住民の方々のボランティアによる清掃活動を実施している。

住民とのふれあいを深めるため「美幌和牛祭り」や「網走川祭」等が実施されている。



美幌和牛祭り



清掃活動

2-6 自然公園の指定状況

網走川流域は自然環境に恵まれた地域が数多く存在しており、これらの保護・保全管理が図られている。網走川水系における自然公園等の法令指定状況は以下の通りである。

2-6-1 鳥獣保護及ビ狩猟ニ関スル法律に基づく鳥獣保護区

【鳥獣保護区】

6ヶ所で鳥獣保護区が指定されている。また、銃猟禁止区域は1ヶ所で指定されている。

2-6-2 国指定天然記念物

網走国定公園内において、女満別湿性植物群落が昭和47年6月14日指定されている。

網走湖南部東岸、ヤチダモおよびヤチハンノキを主とする落葉広葉樹の自然林であり、林床には、ミズバショウの広大な群落が延長約2kmにわたって我が国北部の低湿地林のひとつとして、ミズバショウの代表的な群生地として学術上価値が高い。

2-6-3 国立公園・国定公園

(1) 阿寒国立公園

阿寒国立公園の区域は、美幌町、津別町、弟子屈町、標茶町、鶴居村、白糖町、足寄町の6町1村にまたがっており、その面積は90,481ha(平成17年3月末現在)となっている。

雌阿寒岳をはじめ火山が連なり、深い森に囲まれている。また、マリモが生育する阿寒湖、世界有数の透明度を誇る摩周湖、周囲に強酸性の温泉が点在する屈斜路湖等の湖を有している。

表 2-6 阿寒国立公園の概要

阿寒国立公園 昭和9年12月4日指定	町名	面積(ha)
	東藻琴村	500
	美幌町	1,281
	津別町	1,283
	清里町	465
	小清水町	930
	足寄町	4,355
	標茶町	4,256
	弟子屈町	50,714
	阿寒町	25,598
	白糖町	562
	中標津町	537
	公園合計	90,481

(2) 網走国定公園

網走国定公園は、オホーツク海に面し、網走市を中心にしてその両側に広がる海浜公園である。面積は37,261haあり、佐呂間湖をはじめとして、網走湖、能取湖等大小7つの湖沼を有している。

表 2-7 網走国定公園の概要

単位：ha

市町村名	特別地域					普通地域 (陸域)	合計 (陸域)
	特別保護	第1種	第2種	第3種	小計		
網走市	0	170	9878	5012	15060	12	15072
女満別町	0	93	1474	71	1638	0	1638
斜里町	28	0	463	0	491	0	491
小清水町	38	107	996	0	1141	0	1141
佐呂間町	0	0	6081	535	6616	62	6678
常呂町	0	590	5379	36	6005	52	6057
湧別町	0	29	5466	549	6044	140	6184
合計	66	989	29737	6203	36995	266	37261

表 2-8 各種保護地域指定一覧

整理番号	市町村	鳥獣保護区名	区域	存続期間	備考
204	網走市	呼人	網走市に所在する国有林網走事業区126林班、127林班のうち、イ小班を除く各小班、字呼人349番地のうち、1から9まで、350番のうち、1から3まで及び9並びに上記区域に隣接する網走湖河川敷地一円	S58.10.1 ~ H15.9.30	森林鳥獣生息地 155ha
213	女満別町	女満別	網走郡女満別町字湖南413番地の2の北東端と北海道旅客鉄道株式会社石北本線鉄道敷地の北東端との交点を起点とし、この点から同番地と同鉄道敷地との境界を南西に進み同石北本線との交点に至り、この点から同線を西に進み湖南396番地との交点に至り、この点から同線を190m進み同線から北東に直角に進み国有林網走事業区128林班界より10m手前との交点に至り、この点から同林班界を同線側に10mの幅をとって進み同町字湖南382番地1との交点に至り、この点から東に進み同石北本線との交点に至り、この点から同線を南に進み同町字昭9線との交点に至り、この点から同9線を北西に進み国有林網走事業区128林班との交点に至り、この点から同林班界を南西に進み同林班の南西端に至り、この点から北西を見通して網走湖の湖岸線に至り、この点から同湖岸線を北東に進み、さらに湖岸線に沿って起点を南に見通す点に至り、この点から南を見通して起点に至る線に囲まれた区域 [特保]網走郡女満別町に所在する国有林網走事業区128林班、並びに網走郡女満別町字湖南413番地2の北東端から北を見通して湖岸線に至る線から西側及び国有林網走事業区128林班の南西端から北西に見通して湖岸線に至る線の北東側に所在する河川敷の区域	H12.10.1 ~ H22.9.30	集団繁殖地 120ha [特保] 88ha
210	美幌町	藻琴山	網走郡美幌町に常呂に在る国有林網走事業区18林班に及びイから八までの各小班及び網走郡東藻琴村に常呂に在る国有林網走事業区254林班ろ小班、255林班に、ぬ及びイの各小班、256林班へ小班、257林班は、と、り、イ、八、二及びホの各小班、258林班ろ小班、259林班に、と、ぬ、れ、そ、つ、む、う、く、や、口、へ、からヌまで、ヲ及び力の各小班、260林班ろ、は、ほ、り、ぬ、口からホまでの各小班、261林班はからほまで、イから八まで、ホ及びトの各小班、265林班は及びイの各小班並びに国有林小清水事業区53林班へからちまで、る及びロの各小班並びに斜里郡小清水町に常呂に在る国有林小清水事業区35林班たからねまで、及びハの各小班、36林班はからへまで、ち及びイからチまで、46林班ち、ほ、へ及びハの各小班、51林班いからちまで及びイからチまで及び53林班ろからにまで及びイの各小班的区域一円	S61.10.1 ~ H18.9.30	森林鳥獣生息地 1,124ha
206	津別町	チミケップ湖	網走郡津別町に所在する道有林北見経営区153林班から156林班まで、159林班及び160林班並びにチミケップ湖の区域	H13.10.1 ~ H33.9.30	森林鳥獣生息地 1,415ha
207	津別町	最上	網走郡津別町字最上に所在する道有林野北見経営区第111林班及び112林班の区域一円 [特保]最上鳥獣保護区のうち道有林北見経営区112林班03、10から12まで、94及び98の各小班的区域一円	S59.10.1 ~ H16.9.30	森林鳥獣生息地 448ha [特保] 32ha
208	津別町	木禽岳	網走郡津別町に所在する国有林津別事業区98林班、99林班、102林班ろ小班、125林班のうち、は、に及びるの各小班並びに126林班のうち、は、に、た及びその各小班的区域一円	S58.3.31 ~ H15.3.30	森林鳥獣生息地 500ha
整理番号	市町村	銃猟禁止区域	区域	存続期間	備考
46	網走市	大曲呼人	網走市字大曲に所在する一般道網走常呂自転車道線と網走川との東側交点を起点とし、この点から同川右岸(河川敷地を除く。)を南西に進み網走湖口との交点に至り、この点から同湖畔を南西に進み字呼人の呼人半島突端に至り、同点から網走湖口と網走川左岸(河川敷地を除く。)との交点を見通した線を北東に進み同交点に至り、この点から同川左岸(河川敷地を除く。)を北東に進み一般道網走常呂自転車道線との交点に至り、この点から同自転車道を北東に進み起点に至る線に囲まれた区域一円	H6.10.1 ~ H16.9.30	139ha

平成14年度鳥獣保護区等位置図(別冊編)より

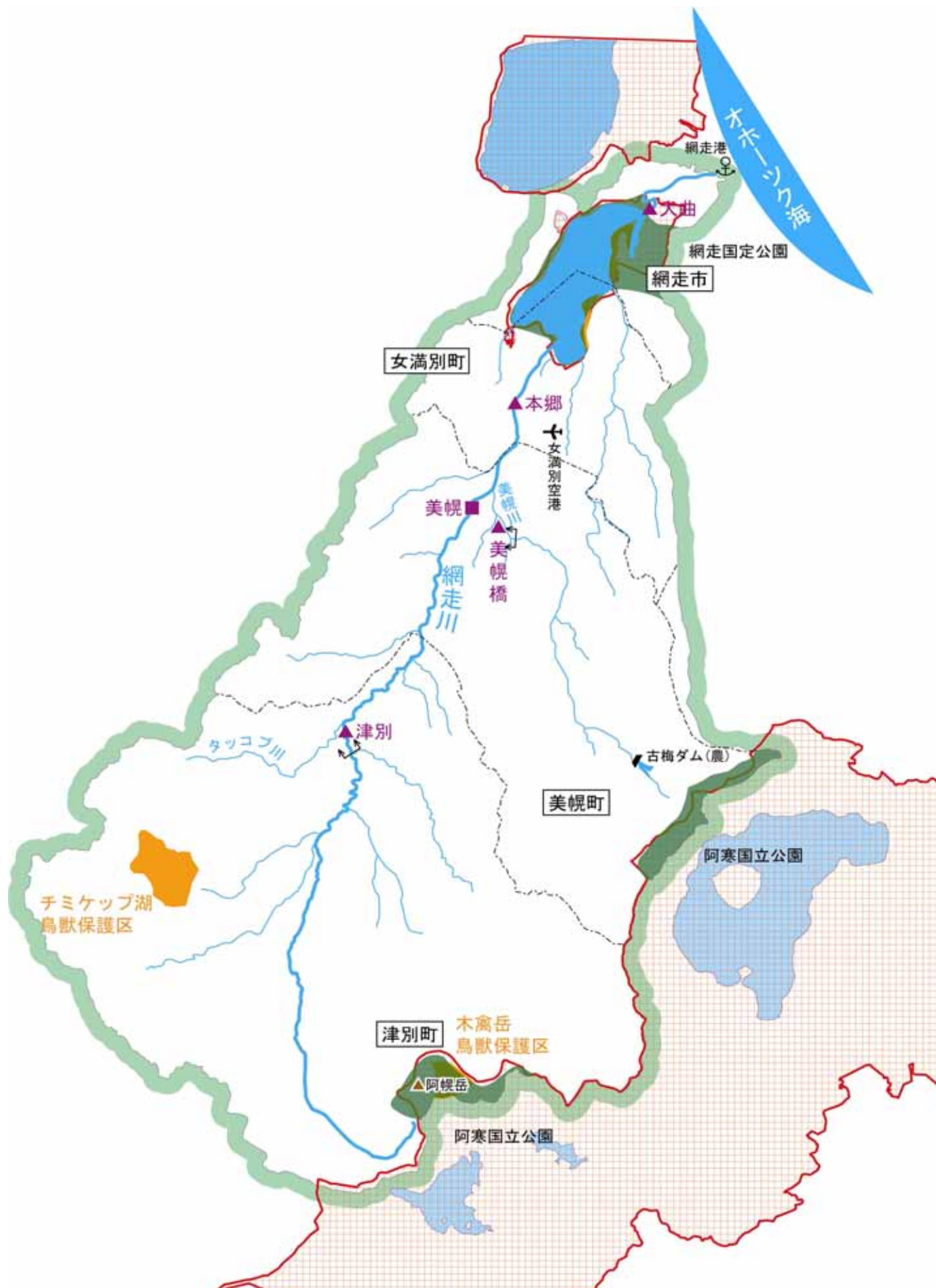


図 2-1 各種保護地域指定地域図

3. 流域の社会状況

3-1 人口

流域は、オホーツク地方の中核都市である網走市の一部を擁し、津別町、美幌町、女満別町からなる。流域関係市町村の総人口は平成12年で80,166人で昭和28年からの推移は表 3-1 のとおりであり、約9%の減少となっている。しかし、市町村別の推移では中心である網走市および美幌町の人口は昭和28年に対し平成12年は約105%から約110%となっており、中核都市としての性格をもっている一方、女満別町の人口の流出は大きく、昭和28年に対し平成12年は約45%から約57%となっている。

表 3-1 流域内人口

区分	網走市	女満別町	美幌町	津別町	1市3町合計	流域内
面積 (km ²)	470.92	159.24	438.36	716.60	1,785.12	1,380.00
総人口 (人)	43,395	6,077	23,905	6,789	80,166	53,463
世帯数 (世帯)	18,012	2,093	8,760	2,615	31,480	19,664
人口密度 (人/km ²)	92.2	38.2	54.5	9.5	44.9	38.5

流域内の集計は河川現況調査(平成12年)による
各町の集計は北海道市町村勢要覧(H17)による。人口はH12国勢調査人口を採用

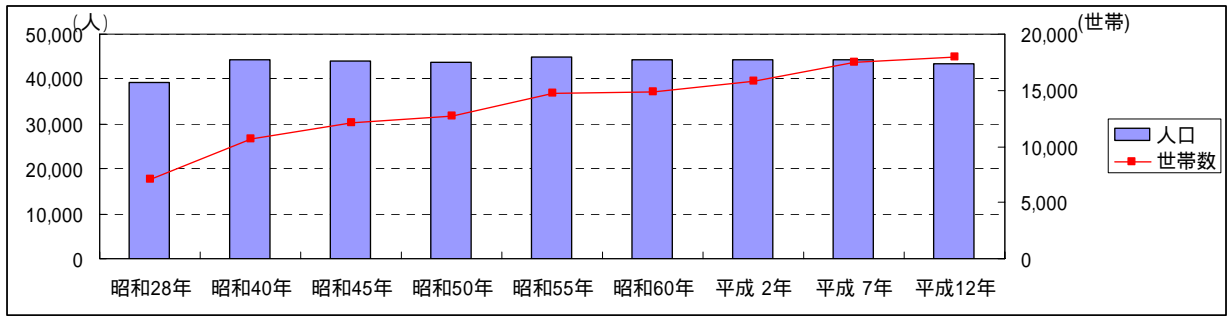


図 3-1 網走市の人口・世帯数の推移

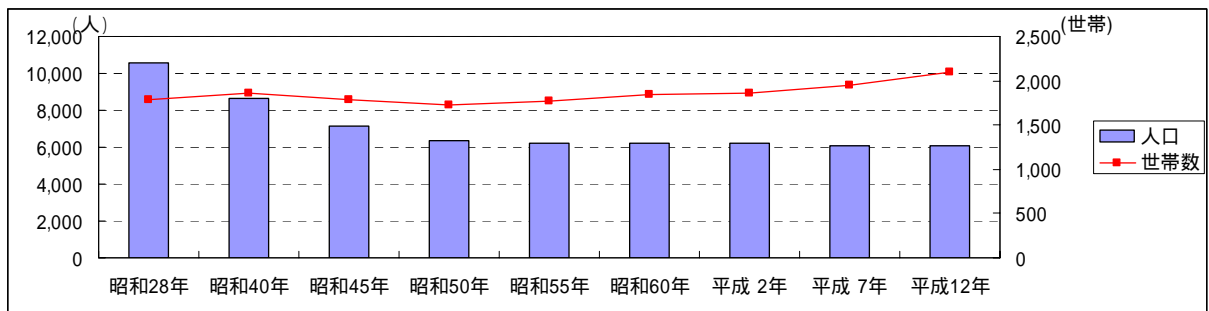


図 3-2 女満別町の人口・世帯数の推移

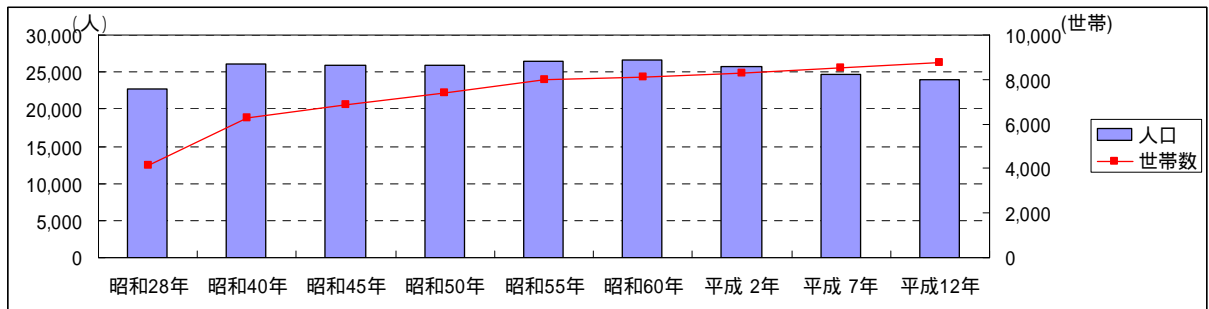


図 3-3 美幌町の人口・世帯数の推移

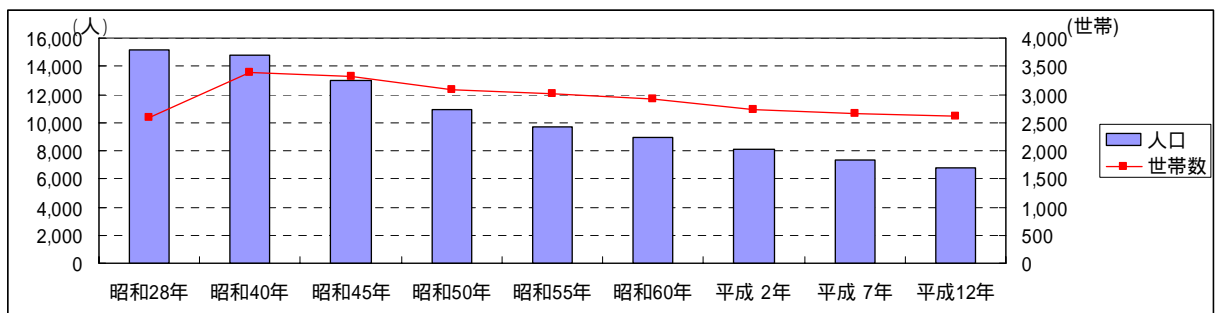


図 3-4 津別町の人口・世帯数の推移

(出展：国勢調査)

3-2 土地利用

流域自治体の土地利用状況は、以下のとおりであり、総面積1784.95km²のうち山林の占める割合が約61%で最も多く、続いて農用地の約21%となっている。

山林は上流の津別町で総面積の約87%に対し、中流の美幌町は約62%、中流～下流域の女満別町、網走市では約24%と約34%となっている。

農用地のうち、水田は各市町村ともに保有しているが、その比率は小さく大半が畑作地、草地である。また、宅地の比率は各市町村で差はあまりない。

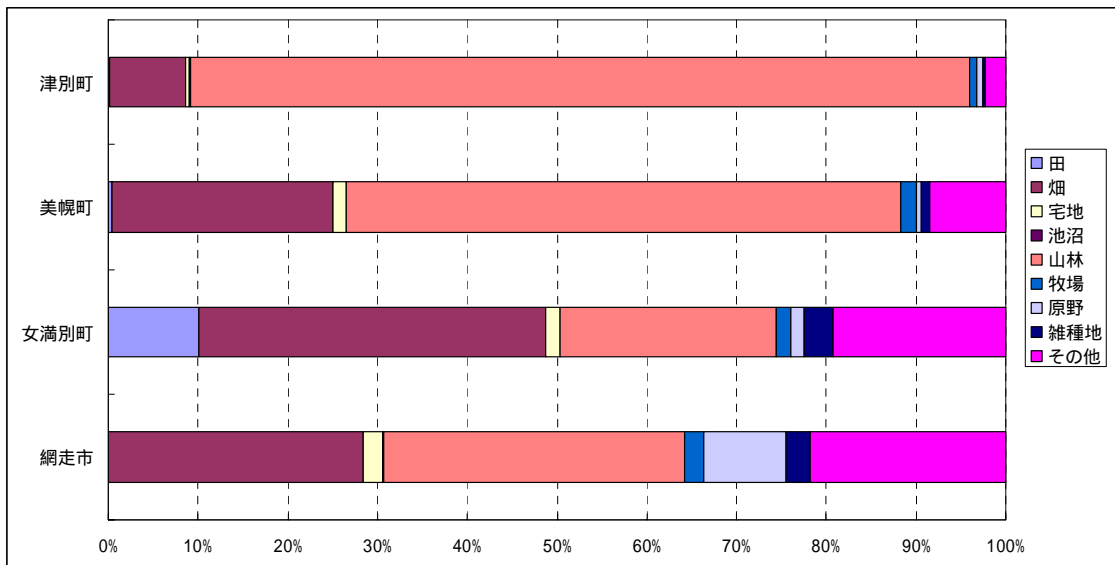
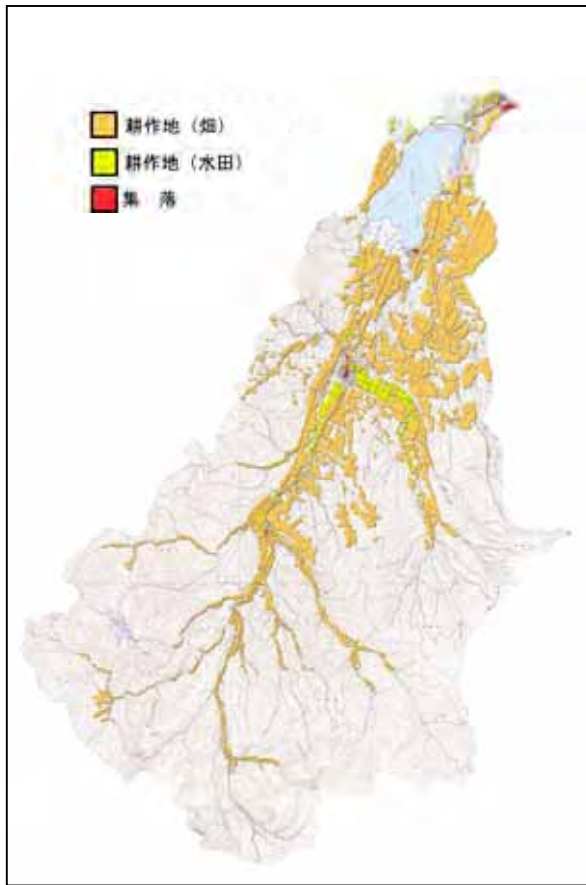
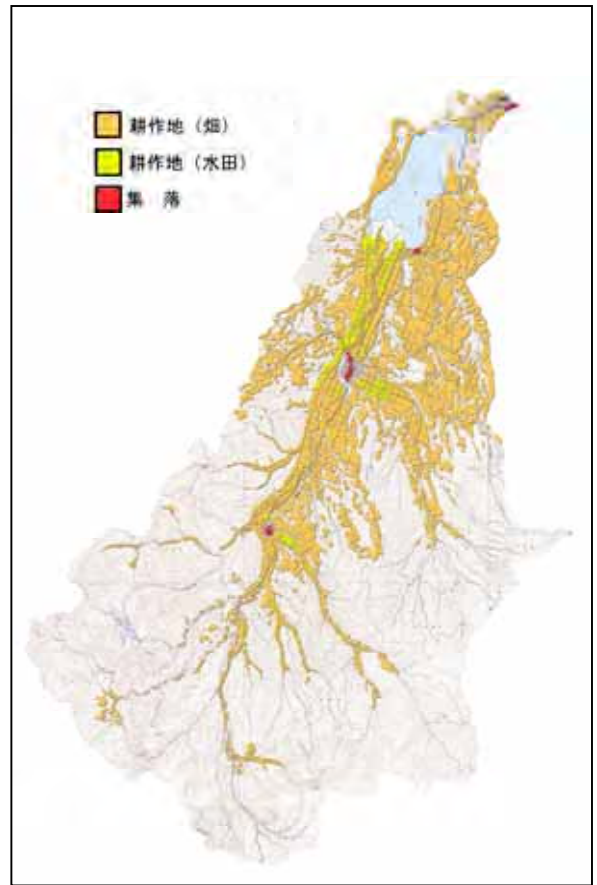


図 3-5 流域自治体の土地利用状況(H15年時点)

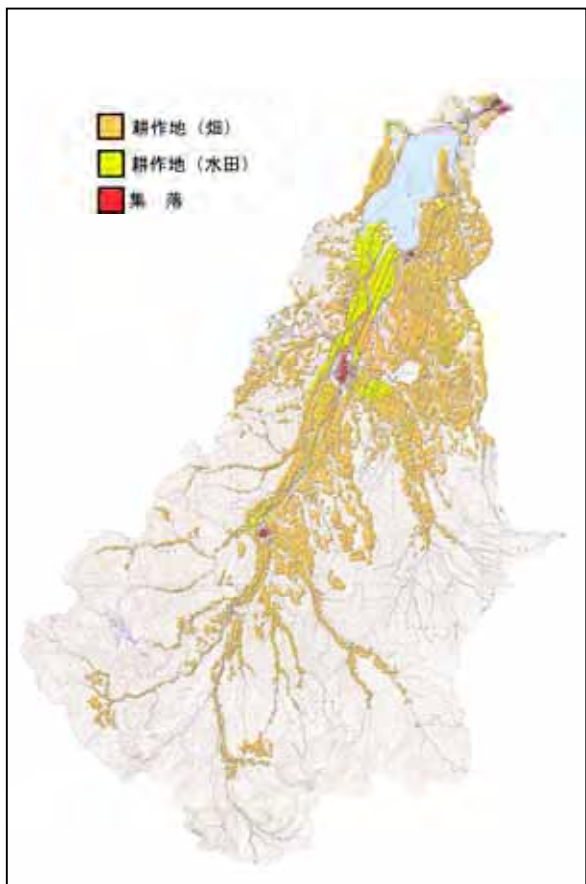
(出展：北海道市町村勢要覧(H17))



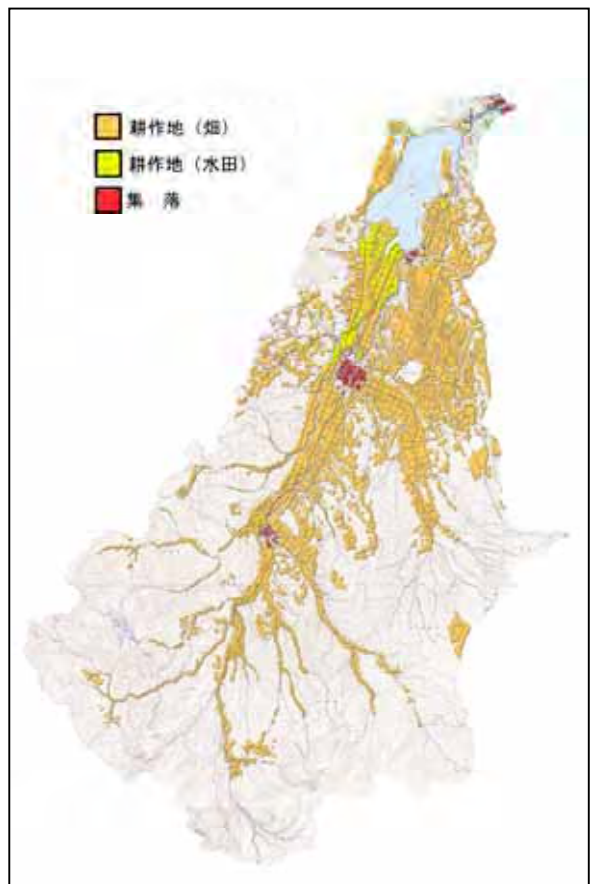
[天 正]



[昭和中期]



[昭和後期]



[平 成]

図 3-6 土地利用の経年変化

3-3 産業・経済

流域自治体内の産業別就業人口の推移を見ると、流域の産業は農林業を主体とし、河口の網走市では漁業も盛んであったが、近年の第一次産業の衰退により、第一次産業人口が昭和26年に比べ平成12年には14,427人から6,227人と約43%に減少しているが、第二次産業が約2.7倍、第三次産業が約3.3倍と高い伸びを示している。

第一次産業就業人口を市町村別で見ると、女満別町、津別町で比較的高く約24%から約38%となっているが、第二次産業就業人口は各市町村とも約17%から約30%程度となっており、第三次産業就業人口は網走市、美幌町で比較的高く、約60%から約66%程度となっている。その他の町でも約45%と高い比率を占めている。

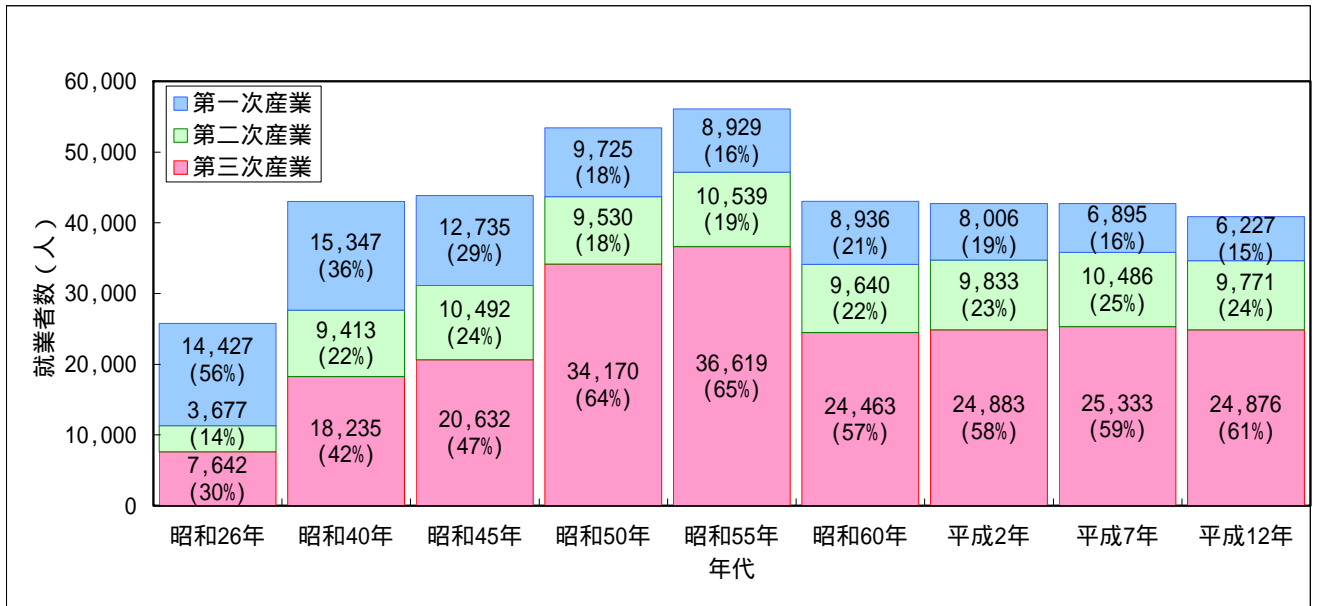


図 3-7 産業3部門別就業者数の推移

(出展：北海道市町村勢要覧)

表 3-2 産業別就業人口と構成比

(単位:人)

区分	第一次産業人口	第二次産業人口	第三次産業人口	総数
網走市	2,392 11.0%	4,937 22.7%	14,446 66.3%	21,775 100.0%
女満別町	1,243 37.6%	570 17.2%	1,497 45.2%	3,310 100.0%
美幌町	1,794 14.4%	3,257 26.1%	7,413 59.5%	12,464 100.0%
津別町	798 24.0%	1,007 30.3%	1,520 45.7%	3,325 100.0%
全道	217,908 8.1%	602,859 22.3%	1,881,089 69.6%	2,701,856 100.0%

注1：下段は構成比率(%)

(出展：北海道市町村勢要覧)

3-4 交通

産業への基盤となる幹線交通系統のうち陸上交通網は、網走市からオホーツク海沿を通り、斜里町を経て根室市に至る国道244号線、旭川市から北見市、美幌町、女満別町を経て、網走市に至る道央とオホーツク圏域を結ぶ国道39号、網走市からオホーツク海沿いを北上し、紋別市を経由して稚内市に至る国道238号線、羅臼町を起点とし美幌町に至る国道334号線、網走市から女満別町、美幌町を通り、美幌峠を経て根室市に至る国道243号線、網走市から女満別町、美幌町、津別町を経て釧路市に至る国道240号線があり、オホーツク海沿岸の各都市間と道内各地を結ぶ交通体系に貢献している。

公共交通網は、昭和60年3月に相生線（美幌～北見相生）、昭和62年3月に湧網線（網走～中湧別）が廃止されたため、現在は道央圏とオホーツク地方を結ぶJR石北本線（新旭川～網走）とオホーツク地方と釧路地方を結ぶJR釧網本線（網走～東釧路）の2路線があり、オホーツク地方の物資輸送や観光旅客輸送に大きな役割を果たしている。特に流氷接岸期には、イベント列車等の運行がなされている。

航空交通網は、昭和10年に気象観測用飛行場として設置され、昭和38年4月から第三種空港として供用開始された女満別空港が存在し、昭和60年4月には現在の位置に移転し2000m滑走路が共用され（平成12年2月に2500m化）ジェット機が就航され道内路線ならびに東京、名古屋、大阪間の定期運行がなされており、平成15年の輸送実績は乗降客109万人、貨物数7209tと道内空港の中でも上位にランクされている。

3-5 関係ある法令の指定状況

3-5-1 第6期北海道総合開発計画

北海道総合開発計画は、行政改革や国際化、地球環境問題への知見の集積等の大きな情勢の変化を受け、地球規模に視点を置いた食料基地、北の国際交流圏の形成、観光・保養基地の形成や北海道が有する美しく雄大な自然環境の保全、安全でゆとりのある生活環境の創造を目的としている。

これらの目的を重点的・効率的に推進してゆくための一方針として広域的・複合的な地域プロジェクトの推進を掲げており、複数の市町村が連携を図り、総合的に取り組むプロジェクトを支援してゆくものとしている。この地域プロジェクトの中には、河川事業に直接あるいは間接的に関連するものも少なくない。

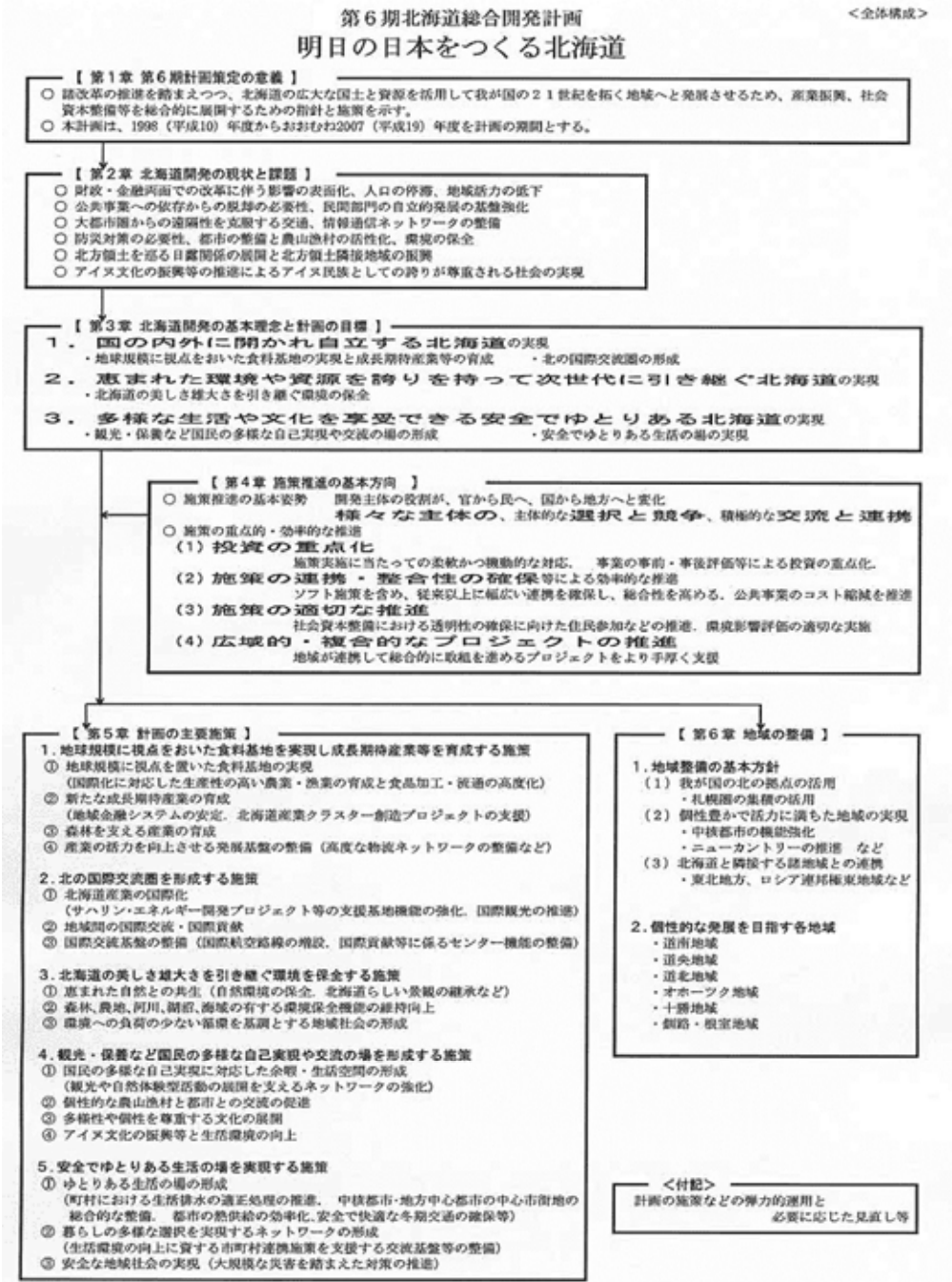


図 3-9 第6期北海道総合開発計画

(出展:北海道局HP)

3-5-2 都市計画

網走市街は、網走川沿川を中心に、オホーツク海、網走湖、山林、農地に囲まれた低地と丘陵地に形成されており、網走湖東部に位置する呼人地区を含めて、約3,483haが都市計画区域に指定されている。用途地域は、大曲地区から網走港に至る網走川沿川の国道39号に沿って、工業系、商業系の土地利用が配置され、網走川より南北に向かって住居系の土地利用が配置されている。また、市街南部地区にはオホーツク公園や網走運動公園等の公園・緑地が分布している。都市施設としては、都市計画道路が19路線、都市計画公園が31箇所、その他下水道施設等となっている。

女満別町市街は、網走湖南端の国道39号に沿って形成されており、市街地周辺区域を含めて、網走川豊郷橋付近から網走川及び網走湖沿いに女満別川に至る約3,914haが都市計画区域に指定されている。用途地域は、JR女満別駅周辺に商業系の土地利用が配置され、それを取り囲む形で住居系、工業系の土地利用が配置されている。網走川及び網走湖沿川は、JR女満別駅周辺を除いて白地地域となっており、農地保全地区となっている。都市施設としては、都市計画道路が8路線、都市計画公園が6箇所、その他下水道施設等となっている。

美幌町市街は、網走川と美幌川の合流部に形成されており、市街地周辺地域を含めて、約2,500haが都市計画区域に指定されている。用途地域は、国道240号、国道243号沿いに商業地域が配置されており、その周辺部に住居系の土地利用、さらに、国道240号沿いと住居系の外縁部に工業系の土地利用が配置されている。都市計画区域内の網走川河川敷は、大部分が網走川河畔公園として整備されており、都市公園に位置付けられている。都市施設としては、都市計画道路が14路線、都市計画公園が28箇所、その他下水道施設等となっている。

津別町市街は、網走川と津別川の合流点に形成されており、本岐、相生地区が国道240号に沿って形成されているが、津別町では都市計画区域は指定されていない。

4. 水害と治水事業の沿革

4-1 既往洪水の概要

網走川流域では、過去に以下に示す洪水が発生している。

表 4-1 既往の主要洪水の概要

洪水発生年月	気象要因	美幌地点流域 平均雨量 (mm/24h)	美幌地点 流量 (m ³ /s)	被害状況
大正11年 8月	台風	161	推定 1,200	被害家屋381戸、田畑浸水2,500ha
昭和7年8～9月	不明	61 (8/4～8/7) 93 (9/6～9/7)	不明	網走町で田畑浸水824町 家屋被害24戸
昭和10年 8月	台風	89	不明	家屋浸水176戸、田畑浸水1,233ha
昭和23年 8月	前線	69	不明	家屋浸水102戸、田畑浸水676ha
昭和36年 9月	台風18号	20	不明	氾濫面積 14,924ha
昭和37年 4月	融雪	-	110	被害家屋 177戸、氾濫面積 397ha
昭和37年 8月	台風10号	78	190	被害家屋4戸、農作物被害10,286ha
昭和50年 5月	低気圧	80	290	被害家屋63戸、氾濫面積4ha
昭和54年10月	台風20号	96	310	被害家屋89戸、氾濫面積795ha
昭和56年 8月	台風12号	62	110	氾濫面積615ha
平成4年 9月	台風17号	130	870	被害家屋322戸、氾濫面積9,585ha
平成13年 9月	台風15号	135	640	被害家屋1戸、氾濫面積1,124ha

注1)被害等は、「市町村史」(T11,S7,S10,S23)及び「北海道災害記録」による

注2)北海道災害記録による被害等は集計上、支川、内水被害を含む。網走市の被害は流域外も含む

注3)昭和37年4月洪水は、融雪による氾濫被害

4-2 主な洪水の概要

主な水害は以下のとおりである。網走川の既往最大は大正11年8月洪水であり、

表 4-2 主な洪水の概要表 被害実態-1

水害	被害の概要
大正11年8月洪水	<ul style="list-style-type: none"> ・ 8月18～19日頃より低気圧の発生頻発となり、次いで24日に至って台風が来襲し、この台風は24日朝伊豆半島の南端に達し、千葉県下を通過し、東海岸に沿って進み24日の新より25日にわたって、本道の南東海岸を過ぎ釧路根室の国境辺りを抜けて、オホーツク海に出て遠く北東方向に去った。 ・ 網走川流域においても、23日から降り続いた雨は、25日までに本岐で203.6mm、網走で198.7mmの大雨となり、25日朝から刻々と増水しその水高は3.8mに及ぶ大洪水となった。 <p><美幌町史> 田畑の浸水女満別1,700ha、美幌800ha、家屋の浸水女満別160戸、美幌220戸、同流出1戸。</p> <p><美幌叢書> 流出家屋1戸、浸水家屋市街地100戸、農家122戸、浸水田畑800ha、土砂堆積畑地50ha、荒蕪地30ha、大正橋・花見橋・豊島橋・笹尾橋等橋梁の流出10箇所。</p>
昭和10年8月洪水	<ul style="list-style-type: none"> ・ 西3号道路付近の網走川、美幌川合流点（花見橋から下流）で氾濫し、下流の28線付近の美幌川堤防を決壊して網走川右岸地区を奔流し、一帯を泥の海と化した。 <p><網走川治水史> 流出家屋1戸、浸水家屋175戸、浸水反別1,232.6ha、橋梁決壊10箇所</p> <p><女満別町史> 床上浸水家屋西女満別168戸、木禽178戸、田畑被害面積1,915町</p>

表 4-3 主な洪水の概要表 被害実態-2

水害	被害の概要
平成4年9月洪水	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道付近に停滞していた前線が活発となり。9月10日午後3時八丈島の東約410kmにあたった大型で強い台風17号は、勢力を保ちながらさらに北上を続け、9月12日0時には国後島付近を通過し、勢力が衰えぬままオホーツク海へ抜けた。 ・各流量観測所では戦後最大の流量水位を観測した。 ・外水氾濫が津別地区、各支川上流及び網走湖周辺低地で発生し、特に直轄区間の津別では屈曲した河道7箇所が越水して氾濫決壊し、蛇行部をショートカットした形で耕地を浸食し、収穫前の農作物が流失し打撃を受けた。 ・内水氾濫は有堤区間全川の低地で発生し、特に網走川と美幌川の合流点に囲まれている美幌町日甜地区周辺で浸水面積35ha、150戸の家屋が浸水被害にあった。 ・直轄区間全体での外水氾濫面積は628ha、内水氾濫面積660haとなった。
平成13年9月洪水	<ul style="list-style-type: none"> ・9月10日から北海道に停滞していた秋雨前線が、台風15号の接近に伴って活動が活発になり雨が降り始めた、台風は11日午前9時頃に神奈川県鎌倉付近に上陸し、よるには再び宮古市付近から太平洋に進んだ。その後徐々に速度を上げて12日朝には釧路市の南東海上を通過して、午後3時に千島近海で温帯低気圧に変わった。これら、前線と台風により管内では3日間に渡って雨が降り網走で211mm等、各地で200mmを超える大雨を観測した。 ・網走湖では、水位が2.32mまで上昇し、警戒水位以上の継続時間が234時間も続いた。 ・網走湖畔住吉地区では7箇所です堤防基盤漏水が生じ、月の輪工により対策を行い本郷住吉地区合わせて47世帯215人に避難勧告がなされた。

4-3 治水事業の沿革

網走川の基本計画調査は、大正2年から大正7年までに河口から津別間40.3kmの測量調査を、また、大正3年から大正11年までに同区間40.0kmの設計調査を実施し、水位観測所は、大正2年から大正8年までに、河口、大曲、木禽、美幌、活汲、本岐の6ヶ所が設置され治水工事計画の基本調査は着々と進められていき、大正8年に至り網走湖より上流美幌36線に至る延長26kmの区間に対し、治水工事計画を立案した。しかしながら拓殖費財源の関係上着工の機運に至らなかった。

本格的な網走川水系の治水事業は、昭和9年から北海道第2期拓殖計画の一環として、大正11年8月洪水にかんがみ、本郷地点における計画高水流量を5万立方尺（約1,400m³/s）、美幌地点の計画高水流量を4万立方尺（約1,100m³/s）として美幌町市街部から網走湖流入地点までの区間について捷水路の開削、築堤等を実施した。

その後、昭和32年に計画を見直し、美幌における計画高水流量を約1,100m³/sから1,200m³/sにし、美幌から住吉までの区間において築堤、掘削等を実施した。昭和43年には住吉から網走市街部までの区間及び津別から美幌までの区間を加え、津別から河口までの計画を決定した。

網走川は昭和44年一級河川に指定され、昭和45年には昭和43年の総体計画を踏襲した工事実施基本計画を策定し、美幌基準点における基本高水のピーク流量を1,200m³/sとして、河道に配分することとした。

昭和50年洪水を契機に、昭和53年より下流部の特殊堤に着手した。その際、網走川の恵まれた河川環境を活用し、都市景観の中に調和させるために、河川緑地計画を策定し、環境に配慮した特殊堤を実施した。平成4年洪水を契機に、上流無堤区間の流下能力不足区間の解消を図るため、改修を実施中である。また、平成13年9月洪水を契機に網走湖の湖岸堤において堤防強化対策が進められている。

近年は網走湖の水質対策として、平成5年より水草の刈り取り、平成7年より湖底の浚渫等が実施され、平成16年6月に網走川水環境改善緊急行動計画（清流ルネッサンス）が策定され、現在実施中である。

砂防事業については、支川の上流部において北海道が平成2年から砂防堰堤等を整備している。



景観に考慮した護岸（下流部）

表 4-4 治水事業年譜

関連事業	年代	治水史
	1900 (M33)	網走川32線に官設渡船場設置
	1901 (M34)	北海道10年計画策定
北海道第1期拓殖計画 (明治43年～昭和元年)	1913 (T 2)	網走川河川調査着手
	1919 (T 8)	網走川治水計画樹立
北海道第2期拓殖計画 (昭和2年～昭和21年)	1927 (S 2)	網走川、常呂川、湧別川などの治水工事費計上
	1934 (S 9)	網走川第1期治水工事着手(昭和11年迄) 網走湖より上流本川河道切替掘削 網走川女満別治水工場設立
	1937 (S12)	網走川第2期治水工事着手(昭和21年迄) 美幌治水工場設立(女満別治水工場を廃止)
	1939 (S14)	美幌治水工場を網走川河川改修事業所と改称
戦後の空白時代 (昭和22年～昭和26年)	1947 (S22)	治水工事再開
	1948 (S23)	美幌川下流部(網走橋付近)浚渫工事着手
	1950 (S25)	北海道開発法の制定
	1951 (S26)	改修計画再検討のための調査開始
第1期北海道総合開発計画 (昭和27年～昭和37年)	1952 (S27)	網走川、湖上本流本郷右岸盛土
	1953 (S28)	網走新橋架替工事完成 昭和28年度以降改修総体計画策定
	1957 (S32)	網走川改修全体計画策定
第2期北海道総合開発計画 (昭和38年～昭和45年)	1960 (S35)	第二次治水五ヶ年計画 (昭和33年～昭和37年)
	1963 (S38)	昭和38年度以降改修総体計画策定
	1964 (S39)	治水橋、永久橋完成 水路(サラカオーマキン川)掘削
第3期北海道総合開発計画 (昭和46年～昭和55年)	1966 (S41)	新水路通水
	1968 (S43)	昭和43年度以降改修総体計画策定 美幌町周辺より網走湖にいたる築堤を概成、美和築堤に着手
	1969 (S44)	網走川1級河川に昇格 工事実施基本計画策定
第3期北海道総合開発計画 (昭和46年～昭和55年)	1972 (S47)	水質汚濁防止法による網走川の水質規制実施
	1973 (S48)	北見河川事務所発足(美幌改修事業所廃止)
	1974 (S49)	昭和47年度以降直轄河川改修計画承認
	1975 (S50)	網走川下流部浚渫着手
	1976 (S51)	網走川河畔公園完成 東幹線頭首工の完成
第3期北海道総合開発計画 (昭和46年～昭和55年)	1977 (S52)	第五次治水五ヶ年計画 (昭和52年～昭和56年)
	1982 (S57)	第六次治水五ヶ年計画 (昭和57年～昭和61年)
	1985 (S60)	網走川西幹線頭首工改築完了 住吉地区の掘削に着手 下流部特殊堤が新橋まで概成、美幌地区護岸を促進 呼人浦護岸着手(昭和61年完了)
	1987 (S62)	鏡橋下流右岸の修景護岸着手(昭和62年完了)
	1988 (S63)	新橋下流右岸の親水護岸着手(昭和63年完了)
	1989 (H 1)	網走川水系河川環境管理基本計画樹立 昭和62年度以降直轄河川改修計画策定
	1990 (H 2)	網走川、常呂川連合水防演習 鏡橋下流左岸、中央橋上流左岸の親水護岸着手 本郷地区の掘削に着手
	1991 (H 3)	網走湖水質保全対策検討委員会発足 美幌右岸AGS工事着手(平成10年完了)
	1992 (H 4)	下流部特殊堤が網走橋まで概成 津別町地区で既往最大洪水である9月洪水の災害復旧
	1993 (H 5)	第七次治水五ヶ年計画 (昭和62年～平成3年)
第3期北海道総合開発計画 (昭和46年～昭和55年)	1994 (H 6)	網走湖・網走川浄化対策事業着手 網走市において桜づつみモデル事業認定(平成6年完了) 岩富築堤着手 直轄河川環境整備事業として網走湖浄化事業が認められる
	1994 (H 6)	網走湖浄化事業として排泥地造成工事着手
	1995 (H 7)	網走川上流部岩富地区の河道掘削に着手
	1996 (H 8)	網走湖の女満別湾で試験浚渫に着手
	1996 (H 8)	活汲橋架替工事着手(平成11年完了)
	1997 (H 9)	河川法改正
	1998 (H10)	中央橋下流左岸築堤・掘削着手 網走湖の呼人浦で浚渫に着手
	1999 (H11)	網走川中央橋下流左岸が水辺ブラザ事業に認定
	2002 (H14)	本郷・住吉地区で平成13年9月洪水の災害復旧工事(漏水対策)
	2003 (H15)	本郷・住吉地区で本格的な漏水対策に着手 美幌地区で光ファイバー整備に着手
1999 (H11)	第九次治水七ヶ年計画 (平成9年～平成15年)	

5. 水利用の現状

5-1 水利用の実態

網走川水系における河川水の利用については、開拓農民による農業用水の利用に始まり、現在は、表 5-1に示すとおり、約4,900haに及ぶ農地のかんがいに利用されている。

水力発電としては、津別発電所、下津別発電所の2ヶ所により総最大出力1,010kWの電力供給が行なわれている。

また、製糖工場等の工業用水やサケ、カラフトマス、ワカサギのふ化養魚用水に利用されている。

表 5-1 網走川水系水利用現況

種別	件数	取水量 (m ³ /s)
かんがい用水 (かんがい面積:4,944.48ha)	66	11.08
工業用水	2	0.424
雑用水	6	0.2268
小計	74	11.7308
発電用水(最大取水量)	2	4.73
合計	76	16.4608

(参考文献：一級水系水利権調書(北海道開発局) 平成17年3月現在)

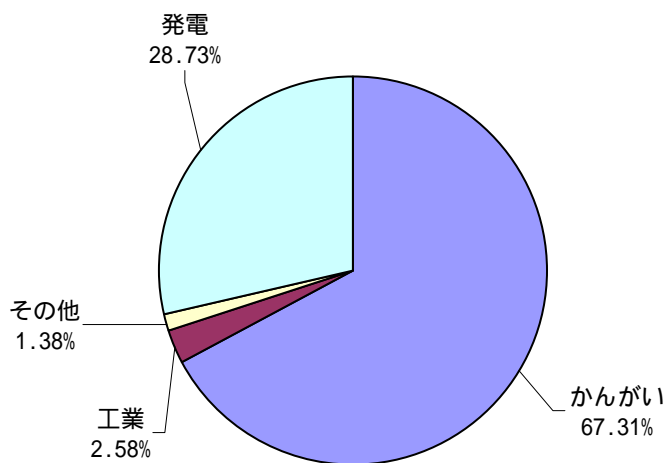


図 5-1 水利用割合図

(参考文献：一級水系水利権調書(北海道開発局) 平成17年3月現在)

(内水面漁業)

網走川及び網走湖における内水面漁業は、網走漁業協同組合（昭和24年8月1日設立）と西網走漁業協同組合（昭和24年7月20日設立）により行われている。漁業対象は、しじみがい、わかさぎ、こい、えび、しらうおである。

漁業権の概要

ア．共同漁業権

漁 協：網走漁業協同組合、西網走漁業協同組合

漁場番号：網内共第3号（網走川）、網内共第4号（網走湖）

設定区間：基点第1号（北海道開発局大曲水位観測所下流端）と基点第2号（基点第1号から300度の線と対岸の交点）を結んだ線から下流 鏡橋下流端の線から下流650mの点までの網走川本流の区域（網内共第3号）
豊郷橋上流端の線から下流基準点第1号（北海道開発局大曲水位観測所下流端）と基点第2号（基点第1号から300度の線と対岸の交点）を結んだ線までの網走川本流及び網走湖の区域、並びに温泉橋上流端の線から下流の女満別川本流の区域（網内共第4号）

漁業権	魚 種	漁業許可期間
第1種共同漁業権	しじみがい	1月1日～12月31日
第5種共同漁業権	わかさぎ（曳網）	1月1日～12月31日
	こい（曳網）	1月1日～12月31日
	こい（刺網）	1月1日～12月31日
	えび（ふくべ網）	1月1日～12月31日
	しらうお（曳網）	1月1日～12月31日

イ．北海道特別採捕許可

漁 協：水産庁さけ・ます資源管理センター、北海道さけ・ます増殖事業協会

漁場番号：北海道の特別採捕許可

設定区間：津別町相生孵化場から河口に至る間の網走川本支流及び網走湖一円

魚 種	漁業許可期間
サケ	8月15日～翌年1月31日（毎年更新）
カラフトマス	8月15日～翌年1月31日（毎年更新）

6. 河川流況及び水質

6-1 河川流況

網走川の美幌地点における過去35年間(昭和45年～平成16年)の流況は表 6-1のとおりで、
低水流量約6.0m³/s、濁水流量は3.3m³/sである。

表 6-1 美幌地点における流況表

年	データ数	欠測数	流量(m ³ /s)						年平均
			最大	豊水	平水	低水	濁水	最小	
S45	365	-	173.87	9.06	6.46	5.60	2.77	2.27	12.95
S46	365	-	99.44	15.60	8.98	5.63	2.82	2.31	14.30
S47	366	-	127.75	14.61	9.97	6.92	5.40	5.12	15.25
S48	365	-	106.07	20.84	12.91	8.37	4.76	1.79	17.88
S49	365	-	153.65	18.48	12.11	8.16	1.99	0.45	16.88
S50	365	-	215.46	28.37	14.76	8.90	6.86	5.48	27.73
S51	366	-	71.20	12.36	7.81	4.72	1.63	0.71	10.60
S52	365	-	57.79	8.86	5.61	4.86	1.13	0.94	9.13
S53	365	-	125.21	10.23	6.90	5.45	1.99	1.19	10.31
S54	365	-	141.08	14.57	6.93	5.30	2.80	2.42	13.35
S55	366	-	39.53	8.33	6.35	4.71	1.33	0.93	8.48
S56	365	-	107.70	16.40	8.94	5.78	3.64	1.97	14.12
S57	365	-	36.14	8.38	6.34	5.09	2.69	2.13	8.91
S58	365	-	92.22	8.87	7.07	5.51	3.78	3.27	9.17
S59	366	-	75.03	6.33	5.35	4.68	1.65	0.80	8.77
S60	365	-	52.36	9.60	6.01	3.83	0.57	0.14	8.70
S61	365	-	68.54	7.44	5.92	4.90	1.57	0.67	9.51
S62	365	-	40.72	7.58	5.14	4.16	1.67	1.17	7.08
S63	366	-	157.22	9.29	5.93	5.08	0.40	0.09	8.91
H1	365	-	61.42	10.82	7.69	6.00	2.68	2.16	10.71
H2	365	-	70.60	17.54	10.68	6.06	4.15	2.27	15.07
H3	365	-	53.05	9.67	6.28	5.19	2.42	1.66	9.42
H4	366	-	533.92	13.77	8.50	5.29	1.88	1.44	14.00
H5	365	-	59.92	14.86	8.28	7.49	3.73	3.36	13.83
H6	365	-	131.00	12.12	8.22	6.85	2.89	2.15	13.23
H7	365	-	67.31	18.50	10.29	7.65	5.40	4.72	14.73
H8	366	-	85.39	13.65	8.54	7.40	6.53	5.69	13.62
H9	365	-	70.58	15.18	8.63	6.19	3.63	2.83	12.47
H10	365	-	309.89	15.15	11.07	7.19	4.20	3.21	16.73
H11	365	-	70.68	9.58	7.54	5.93	3.35	2.67	10.27
H12	366	-	152.78	12.50	7.25	5.58	4.47	3.40	13.96
H13	365	-	570.62	13.19	7.77	5.57	3.99	2.91	15.48
H14	365	-	101.40	13.65	10.12	7.38	6.01	5.69	14.33
H15	365	-	229.85	10.11	8.84	6.36	4.04	3.57	12.31
H16	365	-	148.31	11.40	8.34	7.39	6.03	5.48	14.37
最大値			570.62	28.37	14.76	8.90	6.86	5.69	27.73
平均値			133.08	12.77	8.22	6.03	3.28	2.49	12.76
最小値			36.14	6.33	5.14	3.83	0.40	0.09	7.08
近年35年間(S45～H16)第3位			40.72	7.58	5.61	4.68	1.13	0.45	8.70
近年30年間(S50～H16)第3位			40.72	7.58	5.61	4.68	1.13	0.67	8.70
近年20年間(S60～H16)第2位			52.36	7.58	5.92	4.16	0.57	0.14	8.70
近年10年間(H7～H16)第1位			67.31	9.58	7.25	5.57	3.35	2.67	10.27

注1) 流域面積: 824.4km²

6-2 河川水質

網走川水系における水質汚濁にかかわる環境基準の類型指定は表 6-2、図 6-1に示すとおりであり、大正橋より上流と美幌川のみやこ橋より上流はA類型、大正橋から網走湖と網走湖より下流、美幌川の都橋より下流はB類型に指定されている。

現況水質は図 6-2～図 6-3に示すように近年はそれぞれの河川環境基準値以下でほぼ横ばいに推移している。

水質については、河川ではBOD75%値について、指定されている環境基準値を概ね満足している。一方、網走湖ではCOD75%値が環境基準の3mg/lを大幅に越えており、アオコの他、青潮が頻繁に発生し、漁業資源などに影響を及ぼしている。

そのため、湖内での浄化対策や下水道整備など流域から供給される汚濁負荷を減らす努力が行われている。

表 6-2 環境基準類型指定状況(昭和46年5月25日指定(閣議決定))

水系名	水域名	該当類型	達成期間	基準地名	備考
網走川	網走川上流(大正橋より上流)	A	イ	大正橋	S46.5.25指定 (閣議決定)
	網走川中流(大正橋から網走湖まで)	B	□	治水橋(本郷)	
	網走川下流(網走湖より下流)	B	□	網走橋	
	美幌川(都橋より上流)	A	イ	都橋	
	美幌川(都橋より下流)	B	□	美幌橋	

注)達成期間の「イ」は直ちに達成、「□」は5年以内で可及的速やかに達成を意味する。

表 6-3 水質環境基準の類型指定状況(網走湖)

水域名	該当類型	達成期間	備考	指定年月日
網走湖 (全域)	湖沼			
	ア A	イ		昭和46年5月25日 閣議決定
	イ	イ		昭和61年1月13日 道告示第44号

注)1. 『該当類型』の湖沼、ア、イ

ア：pH、COD、SS、D₀、大腸菌群の環境基準

イ：全窒素、全りん環境基準

2. 達成期間の「イ」は直ちに達成、「□」は5年以内で可及的速やかに達成を意味する。

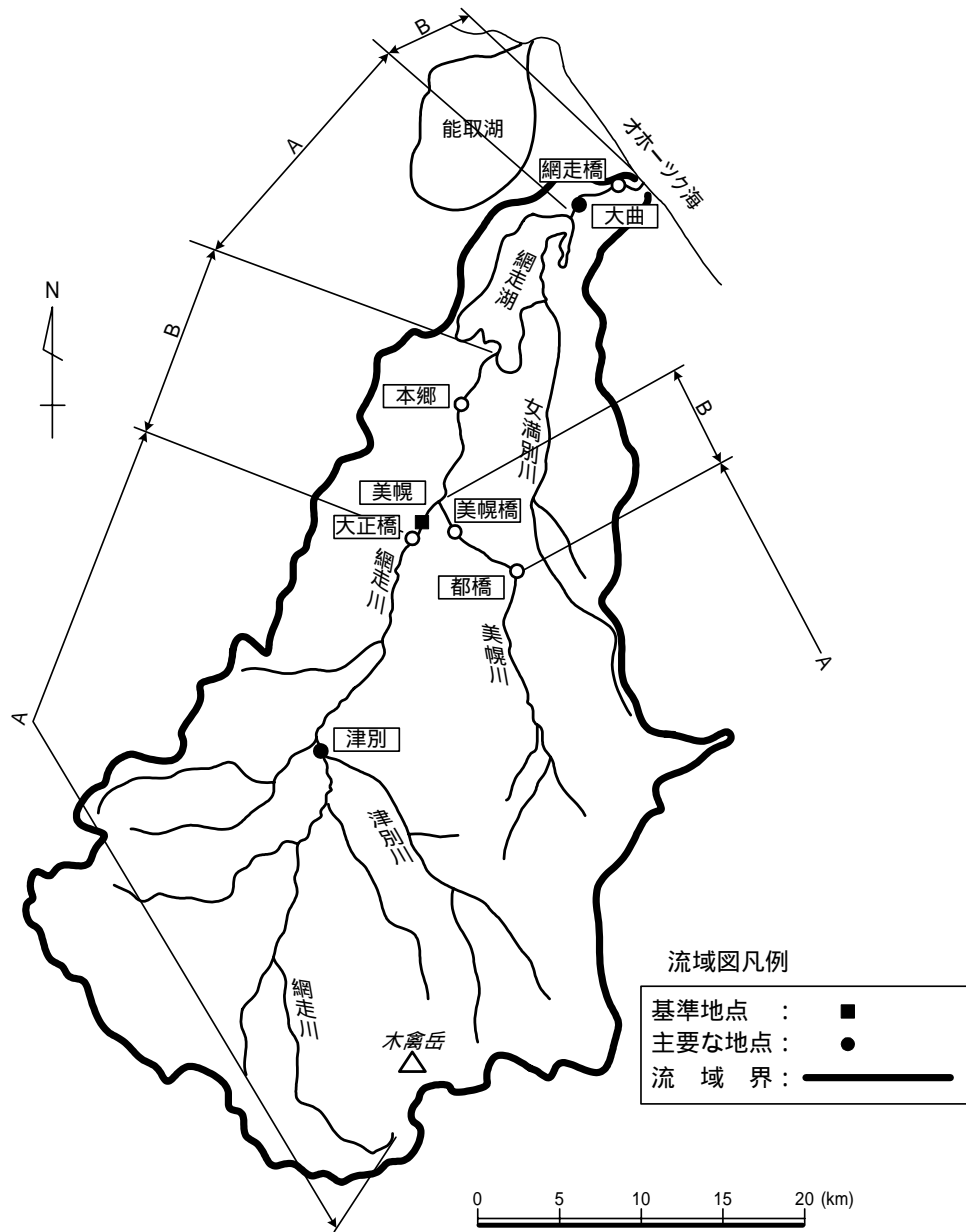


図 6-1 網走川水系水質環境基準地点および類型指定区間

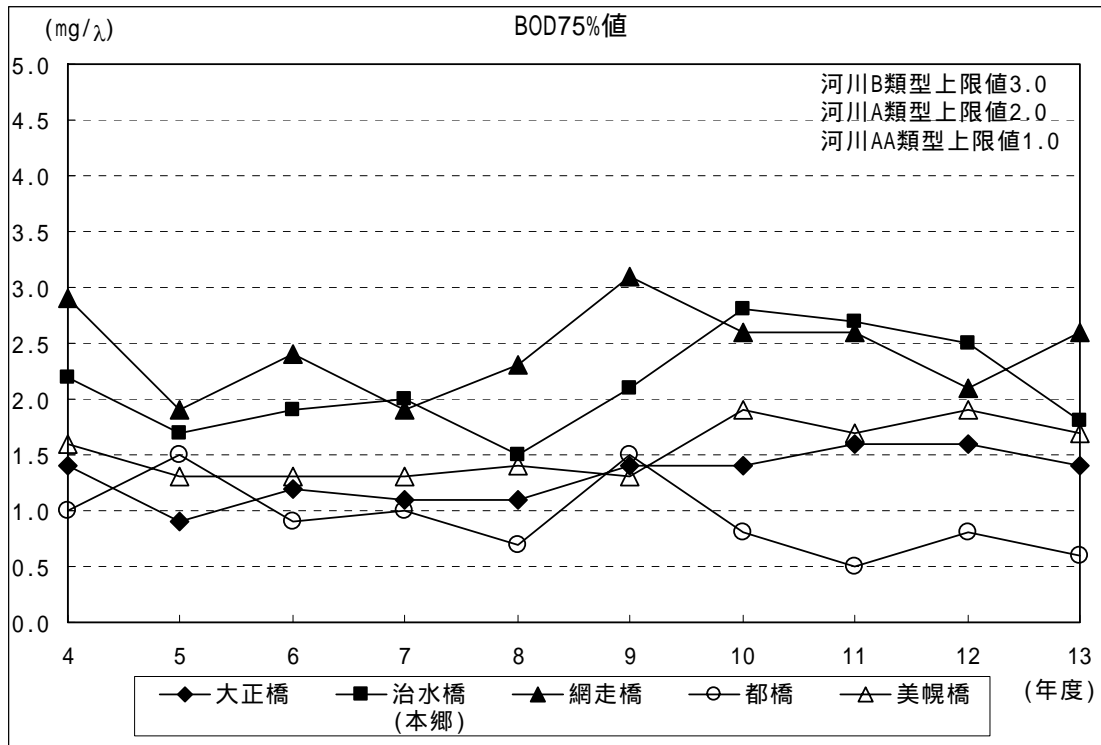


図 6-2 網走川における水質(BOD75%値)の経年変化

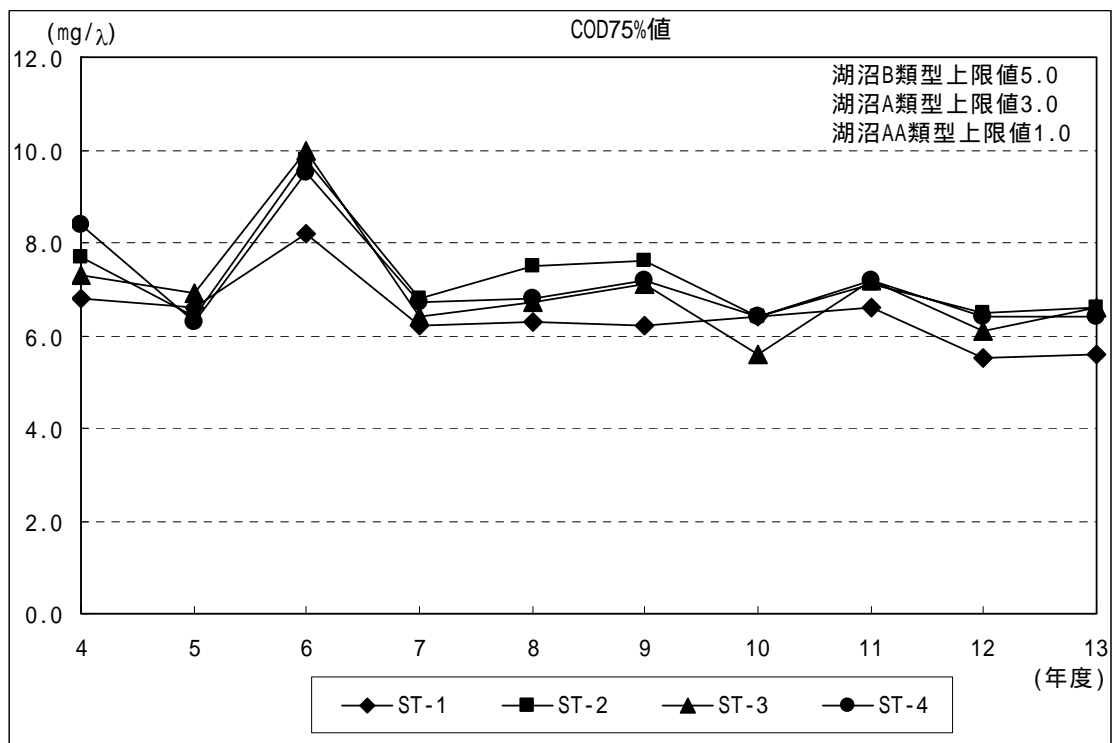


図 6-3 網走川における水質(COD75%値)の経年変化

7. 河川空間の利用状況

7-1 河川敷等の利用状況

7-1-1 河川敷地の利用状況

網走川の年間河川空間利用者総数(推定)を以下に示す。

平成15年度の利用者数の推計は、約58.0万人で、沿川市町村人口からみた年間利用回数は約7.3回である。

利用形態別では、スポーツ利用が約半数(48.6%)を占め、最も多く、次いで散策等29.7%、水遊び14.5%、釣り7.2%の割合であった。

利用場所別では、高水敷が68.6%と最も多く、次いで水面が19.4%、堤防が9.7%、水際が2.2%であった。

形態別に見ると、スポーツや釣り・水遊びといった割合が全て増加している。これは、近年の利用形態やレクリエーションの多様化といった河川利用が活発に行われているためである。

また、網走湖も利用した釣りやキャンプ、高水敷を利用したスポーツや散策等を主体とした活発な河川利用が今後も期待される。

区分	項目	平成15年度	
		推計値 (万人)	グラフ
利用形態別	スポーツ	28.2	<p>散策等 29.7%</p> <p>スポーツ 48.6%</p> <p>水遊び 14.5%</p> <p>釣り 7.2%</p>
	釣り	4.2	
	水遊び	8.4	
	散策等	17.2	
	合計	58.0	
利用場所別	水面	11.3	<p>堤防 9.7%</p> <p>水面 19.4%</p> <p>水際 2.2%</p> <p>高水敷 68.6%</p>
	水際	1.3	
	高水敷	39.8	
	堤防	5.6	
	合計	58.0	

7-1-2 高水敷の利用状況

高水敷きは、洪水時以外は未使用であるよりも洪水流通時管理面で支障の生ずることが無く、かつ、河川の公共用物としての性格にあった利用がなされる場合は、河川にとって好ましいものである。オープンスペースの少ない都市部では、河川空間の存在は貴重であり、河川敷地の緑地化、公園化を推進し、積極的に開放、利用を図っている。利用状況は表 7-1のとおりである。

表 7-1 河川敷地の占用状況(直轄管理区間)

(単位：千³m)

区間名	1号地				2号地				3号地				合計			
	官有地	民有地	不明地	計	官有地	民有地	不明地	計	官有地	民有地	不明地	計	官有地	民有地	不明地	計
指定区間外	34,477	61	0	34,538	1,687	28	0	1,714	7,270	144	0	7,414	43,433	233	0	43,666

(平成17年4月30日現在)

(単位：千³m)

区分 水系名	3号地											不明地	合計	
	官有地					民有地								
	既利用地	未利用地				計	既利用地				未利用地 (荒地)			計
		利用可能地		利用不可能地	計		宅地	田畑	運動場	その他				
そのまま 利用可能地		手を加えれば 利用可能地												
網走川水系	2,514	446	1,627	2,683	7,270	21	52	0	15	56	144	0	7,414	

(平成17年4月30日現在)

7-2 河川の利用状況

網走川は、網走湖を含み広大な河川空間を有しており、特に河川敷地は水面および背後地の諸条件により、その地域のニーズに適応した利用がなされている。

網走川感潮域では特殊堤のため高水敷はなく、網走湖岸は水面を利用した公園、広場、キャンプ場等が、中流部は広い高水敷を有し、採草放牧地として利用されている。美幌市街の都市地域では自然のうるおいとやすらぎを得られる重要なオープンスペースとして、広場、公園緑地等多目的に利用され、また、各種イベントも実施されている。

河川の利用については、網走湖畔にキャンプ場や多目的スポーツ施設が整備されており、春期から秋期にかけては、カヌーやボート遊び、スポーツ、散策等に、湖が一面氷に覆われる冬期はワカサギ釣りやスノーモービル等四季を通じて広く利用されている。さらに、網走湖畔や網走及び美幌市街地付近の河畔公園では様々なお祭り等の河川空間を利用したイベント等も行われている。



網走川まつり(網走市)



網走川まつり(網走市)



美幌牛肉観光まつり(美幌町)



北海道ドラゴンボート競技大会(網走湖)

8. 河道特性

網走川は、その源を阿寒山系の阿幌岳(標高978m)に発し、山間部を流下し、津別町市街部で津別川を合わせ、平野部を流れながら美幌町市街部において美幌川と合流する。美幌町を貫流し女満別町において網走湖に至り、トマップ川および女満別川を湖内に集め、湖から流れ出て網走市街地を経てオホーツク海に注ぐ、幹川流路延長115km、流域面積1,380km²の一級河川である。

上流域(源流部から津別川合流点付近)

河床勾配が約1/50~1/300であり、天然林が多く残り、キタミフクジュソウ、クリンソウ等の植物が生育している。また、サケやカラフトマスが上流域まで遡上しており、サケの産卵床が分布している。

中流域(津別川合流点付近から美幌川合流点付近)

広い畑地帯に調和した河川景観を形成しており、河床勾配が約1/300~1/600であり、サクラマスやシベリアヤツメ等が生息している。高水敷はハルニレ群落やエゾノキヌヤナギを主体とするヤナギ群落、ヨシ群落が分布し、美幌町市街地の高水敷には河畔公園や運動公園が整備され、イベントやスポーツ等に利用され、地域住民の憩いの場となっている。

下流域(美幌川合流点付近から網走湖に流入するまで)

河床勾配が約1/2,000であり、ワカサギの産卵床が連続して分布しており、河岸はエゾノキヌヤナギやクサヨシが繁茂し、オジロワシ、オオワシが周辺を飛来する。また、広い高水敷は採草地等に利用されている。

網走湖

約千年前に現在の形となった海跡湖であり、下流に約7kmの網走川を介してオホーツク海につながっている汽水湖で、網走湖及びその周辺は国定公園に指定されている。また網走湖の南東岸には、国の天然記念物にも指定されている女満別湿性植物群落があり、網走の自然景観を代表するミズバショウ群生地は56haあり全道1位となっている。女満別湿性植物群落を含む網走湖畔周辺は、アオサギの営巣地となっている他、オジロワシ、オオワシ、クマガラ等の多くの鳥類の休息地、採餌場となっている。また、流水とともにアザラシ等が訪れ網走湖湖口で冬を過ごす。

水際にはヒロハノエビモ・ホザキノフサモやマツモ等の水生生物が生育している。

感潮域(網走湖から河口)

網走市街を貫流し、漁港として利用されている河口部に至る。網走湖下流の大曲地区は、良好な河畔林形成し、アオサギ、カワセミ、ミコアイサ等の水鳥や、オジロワシ、オオワシ等の多様な鳥類が休息地、採餌場として利用している。また、ワカサギ、シラウオの他、沢水の溜まる箇所にはエゾサンショウウオが生息している。

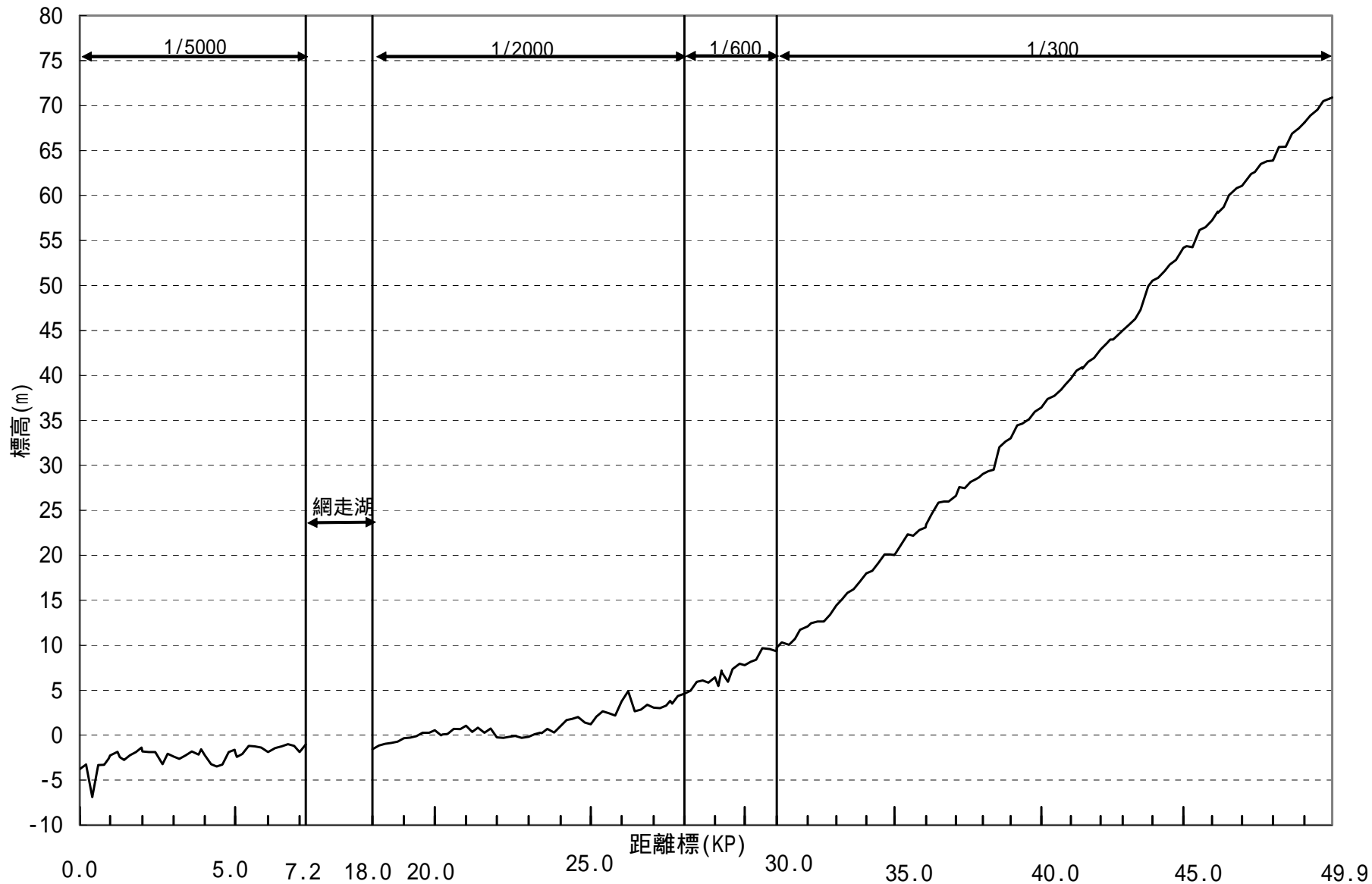


図 8-1 網走川河床高縦断面図

9. 河川管理の現状

9-1 河川管理施設

網走川における河川管理施設等の整備状況は下記の通りである。

9-1-1 堤防

堤防整備の現状(平成17年3月末現在)は下記の通りである。

表 9-1 網走川水系堤防整備状況

	延長(km)
完成堤防	49.4(76.5%)
暫定堤防	9.0(13.9%)
未施行区間	6.2(9.6%)
堤防不必要区間	59.8
計	124.4

延長は、直轄管理区間の左右岸の計である

9-1-2 洪水調節施設

- 洪水調節施設：なし

9-1-3 排水機場等

- なし

直轄管理区間の施設のみである

9-2 砂利採取

網走川においては、今までに砂利採取は行われていない。

9-3 水防体制

9-3-1 河川情報の概要

網走川では、流域内に雨量観測所(16箇所)、水位観測所(10箇所)を設置し、無線等により迅速に情報収集を行うと共に、これらのデータを用いて河川の水位予測や洪水予報等を行い、水防活動に活用している。また、近年では光ケーブル網により接続された遠隔監視カメラを用いた管理も行っており、それが迅速な水防活動の一助となっている。

9-3-2 水防警報の概要

網走川では、洪水による災害が起こる恐れがある場合に、美幌地点等の基準となる水位観測所の水位を基に市町村を含む水防関係機関に対し、河川の巡視や災害発生防止のための水防活動が迅速かつ的確に行えるように水防警報を発令している。

9-3-3 洪水予報

走川では、水防法及び気象業務法に基づき、「洪水予報」を気象台と共同で発表している。流域の雨量や水位の状況、水位予測等を一般住民にわかりやすく迅速に伝えるべく整備を進めている。



図 9-1 洪水予測区間及び雨量・水位観測所

9-4 危機管理への取り組み

9-4-1 水防連絡協議会との連携

洪水・高潮等による被害発生防止または軽減を行うため、国及び地方自治体の関係機関が連携し、住民の避難、水防活動等を迅速かつ円滑に行うための水防連絡協議会が結成されている。この協議会により、重要水防箇所の合同巡視、水防団、水防資材の整備状況の把握、定期的な水防訓練等を行っている。

9-4-2 水質事故対策の実施

油類や有害物質が河川に流出する水質事故は、流域内に生息する魚類や生態系のみならず、水利用者にも多大な被害を与えている。水質事故が発生した場合、その被害を最小限にとどめるため、迅速で適切な対応が必要になっている。このため、環境保全連絡協議会により、連絡体制を強化すると共に、水質事故訓練等を行ったり、水質事故に備え、常時から資機材の備蓄を行っている。

9-4-3 洪水危機管理の取り組み

洪水危機管理に於いて、平常時から危機管理に対する意識の形成を図ると共に、洪水発生時の被害を最小限に抑えるため、浸水想定区域図を公表すると共に水防計画・避難計画の策定の支援、土地利用計画との調整を関係機関や地域住民等と連携して推進している。

9-5 地域との連携

網走川流域では、網走川に沿って町が連なっており、網走川を中心に各地域間での街づくりの連携が進められている。

流域内では、網走市網走川整備検討委員会、網走川河道整備促進協議会が設置され、北海道開発局網走開発建設部が主体となり、今後の川のあるべき姿や、川づくりのあり方について、関係河川使用者、地元漁業者、学識経験者、関係行政機関等との意見交換が行われている。

一方、今後、流域のまちづくり事業と連携し、河川を地域レクリエーション、防災、まちづくりの拠点として位置付け、地域と一体となった河川管理を行うことが必要とされている。地域住民と協力して河川管理を進めるためには、インターネット等のメディアを利用する等して、様々な河川情報を発信すると共に、地域からの河川整備に対する要望等を集約し、住民参加型の管理体制を構築する必要がある。また、河川清掃や、節水・水の再利用等を通じて、地域住民の河川に対する愛護精神を啓発していくことも重要である。